

2018年度事業報告書

公益財団法人 東洋文庫

2018年度 公益財団法人東洋文庫事業報告書

公益財団法人 東洋文庫
理事長 榎原 稔

2018年4月1日～2019年3月31日までに行われた公益財団法人東洋文庫事業の概要は下記の通りです。

事業目的

公益財団法人東洋文庫は、全国の代表的な研究者よりなる東洋学連絡委員会の企画ならびに審議にもとづき、広く学界の要望に応える全国的な、また国際的な東洋学研究センターとして、資料センター・共同利用研究施設としての機能を果たすべく、必要な各種の事業を行うとともに、東洋学の不特定多数への広い普及をはかり、学術・文化・芸術の振興に寄与する。

事業項目

| | |
|-------------------|----|
| 概要..... | 2 |
| I アジア基礎資料研究..... | 6 |
| II 資料収集・整理..... | 22 |
| III 資料研究成果発信..... | 24 |
| IV 普及活動 | 25 |
| V 学術情報提供..... | 33 |

概 要

I 研究事業の全体構想

東洋文庫は、1924年、欧文貴重書 1,100 点余を含む欧文図書資料からなるモリソン (G. E. Morrison) コレクション、ならびに和漢の貴重古典籍からなる岩崎文庫を中核として、岩崎久彌氏によって、アジアの貴重図書資料に関する民間の研究図書館として創設された。その後 90 年以上にわたり、一貫してこれらの貴重図書資料を中核とする 100 万冊に及ぶアジア諸地域の現地語資料を継続的・系統的に収集し、それらのすべてを散逸させることなく保存・管理し、同時に広く世界の研究者ならびに市民に公開することを目的とした事業を進めてきた。

研究事業の長期的な目的は、これらのアジア研究に関する貴重図書資料を保存・管理・公開し、なおかつアジア現地語資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料に基づく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。このような研究事業を 260 名に及ぶ研究員を擁して推進する類似の民間の研究図書館は国内には存在せず、世界的に見ても稀有な存在であり、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫が世界的に高く評価される理由であると同時に、長年にわたって蓄積されてきた特色ある研究を継続的に推進することは、世界のアジア研究者が切望するところでもある。

II 特定奨励費による研究事業の目的

東洋文庫は、「I 研究事業の全体構想」に述べた事業目的をさらに効果的に実現するために、これらの基本的な課題を推進する中で、2012 年度以来、以下の点に一層重点を置いて、特定奨励費による研究事業を推進してきた。

- (1) 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の教訓を踏まえ、貴重資料に関する書誌的資料研究をより一層強化し、併せて貴重資料の修復・保管・複製化・電子化という連続した資料保存とその公開をより系統的かつ持続的に推進する。
- (2) 大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究として、東洋文庫のすべての研究班の連携によって構成される「総合アジア圏域研究班」を設置し、主題研究、地域研究、資料研究を連結した「総合アジア圏域研究」を全アジア的視野から推進する研究体制を構築する。
- (3) 「総合アジア圏域研究」に伴う資料交流・人的交流・国際交流を一層推進し、電子化などによって研究成果を広く発信し、国際的な発信力を強化する。
- (4) 東洋文庫における資料研究・総合アジア圏域研究・国際交流・国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材を育成する。

特に 2016 年度より、(1) アジア資料研究データベースの構築 (試行期)、(2) 資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進、(3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進、(4) 研究成果の刊行・発信の強化、(5) 若手研究者の育成、という 5 点の重点事業目標を設定して、研究班によるアジア現地研究・資料調査と収集を基礎に、研究データの保存・管理・公開を一体化した総合的アジア研究データベースの構築を推進すると共に、東洋文庫の刊行物ならびに各種講演会・講習会ならびにミュージアムによる経常的な公開展示などの取り組みを通して、ひろく内外にその研究成果を発信している。

資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進についていえば、系統的かつ継続的にアジアの各地域に関する現地の原語資料を収集し、それを現地の研究者・研究機関と共同して整理・編集して目録を作成し、世界の研究者の用に供している。特徴的な活動としては、中央アジア研究において、ロシア・サンクトペテルブルクのロシア科学アカデミー東洋写本研究所との協力関係・信頼関係のもと、中央アジア出土のウイグル文書の編集を共同で行い、20 年間にわたり目録の編集を継続して行い、現在はこれをデータベース化してデータの充実に取り組みつつ内部公開し、外部公開のための協議を行っている。

同様に、協力協定機関であるアメリカのハーバード・エンチン研究所や、台湾の中央研究院などとの間で長年にわたって調査協力・国際共同研究・資料交換・人材交流等を行っている。このような研究機関相互の信頼関係に基づいて長期間にわたって継続的に行われる研究活動は、個人や研究グループが短期的に実現できるものではなく、東洋文庫が研究図書館として実施するにふさわしい事業であるといえる。

アジア資料研究データベースの構築についていえば、(1) 資料、(2) 研究 (分類・目録・索引など)、(3) 成果、の三者を一体化した総合的アジア研究データベースの作成と、それによる研究データの保存管理、成果の公開発信を目的とするものである。具体的には、アジア各地域の原資料のデジタル化と分析・解読を基礎とし、これに関連する研究情報をメタデータとして付加し、多分野にわたる研究を横断的かつ通時的に検索することが可能な汎用性の高い総合的研究データベース・システムを構築するべく取り組んでいる。これはアジアに関する基礎資料研究の長い伝統と蓄積を有する東洋文庫だからこそ可能であると同時に、学術団体としての東洋文庫の特徴を十分に体现しうるものと考ええる。

III 2018～2020 年度の重点事業目標

東洋文庫の基本的な事業を継続的に推進するなかで、2018～2020 年度において重点的に取り組む主要な事業項目を以下に掲げる。

- (1) アジア基礎資料研究の構築と、それによる現地研究機関との共同研究の新展開
- (2) 総合的アジア研究データベースの推進 (開発期)
- (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進
- (4) 研究成果の刊行・発信の強化
- (5) 若手研究者の育成

アジア基礎資料研究については、従来の研究班主体の調査研究体制を改め、研究部執行部の主導のもとアジアのすべての地域に跨がる資料の収集、保存、公開、研究が一体化した、東洋文庫の伝統と蓄積を継承・発展させる基礎資料研究の構築に重点を置く。特に、すべての研究班が参画する総合アジア圏域研究班において、アジア各地の資料に用いられた紙に対して新たに導入する精密顕微鏡による精密調査を行い、地域別・時代別の紙質分布データベースを構築することで、資料の研究・保存・公開の各方面に有効活用できる基礎データを蓄積し、東洋文庫の伝統であるアジア資料学をより深化・展開させることを目指す。また、総合的アジア研究データベースの構築は、2018～2020 年度においてもっとも重点を置いている項目の一つであり、2015～2017 年度の「アジア資料研究データベースの構築」を試行期、今期を開発期に位置づけ、データ収集、システム開発において完成の域に達することを目標としている。

特定奨励費による本研究事業は、基本的には、アジアに関する資料の収集・保存、研究、公開の一体化とそのための効果的な事業運営に特徴がある。具体的には、【資料の収集・保存】研究者による資料 (国内外の専門書・和漢洋の古典籍) の収集、多言語に通じた司書による蔵書資料検索データベースの充実、専門家による和漢洋古典籍の保存修復、【研究】研究者によるアジア基礎資料研究、研究者によって蓄積された研究データ (研究資源・研究成果) の保存・活用、若手理系研究者との共同による総合アジア研究データベースの構築および他機関で作成された資料研究データベースとの連携、すべての研究班による総合アジア圏域研究国際シンポジウムの開催、ハーバード・エンチン研究所、ECAF (European Consortium for Asian Field Study) を始め協定機関との国際連携の強化、【公開】収集した書籍の蔵書・資料検索データベースによる公開、蓄積された研究データの総合的アジア研究データベースによる公開、定期刊行物・オンラインジャーナル・論叢等出版物・機関リポジトリ「ERNEST」 (<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>) による研究成果の発信、内外の研究者による広く一般に向けた東洋学講座の開催、外国人研究者による特別講演会の開催、東洋文庫の蔵書に通暁した学芸員によるミュージアムの企画展示などに対し、研究員・司書・学芸員が一丸となって取り組むことで、アジア研究の総合的研究水準を高めると同時に、東洋学に携わる後進の育成と一般への普及に貢献することを目指す。

IV 研究事業の効果

研究事業の効果について、2018～2020年度の重点研究事業である紙料調査を中心に述べる。

I. アジア基礎資料研究

東洋文庫が所蔵するアジア関連の図書・資料は洋書 30 万冊、和漢書 70 万冊に上り、書写・印刷時期は、洋書は 15 世紀、和漢書は 8 世紀を筆頭に、それぞれ現代に及び、書写・印刷地域は、アジアとヨーロッパを中心とした全世界に及んでおり、しかも、そのすべてが原典である。このように広範かつアジアに集中した内外の図書・資料を保管・公開して世界のアジア研究者の用に供し、併せて 280 名に及ぶ研究員がアジア資料研究に従事する研究図書館は世界に類を見ないと言える。これらの蔵書を維持・管理することは東洋文庫に課せられた使命であり、その記述資料を保存・修復するためには、資料の素材である紙質・紙料の分析が不可欠である。この紙料調査を東洋文庫所蔵資料とアジア諸地域の現地資料館との双方において進めることを、今期 3 年間の重点事業として計画している。

紙質調査の効果は、諸方面に期待できる。アジア各地の紙の製法・特徴を明らかにすることで、資料に用いられた紙の製造時期・地域が特定できるようになり、ヨーロッパに輸出されたアジアの紙が、印刷された後にアジアにもたらされるなど、紙という文化資源の国際流通の実態や、紙の流通を背景とした書籍流通による知的文化交流の実態が明らかとなる。例えば、古代から楮、三桮（右図を参照）で紙を梳いたアジアに比較して、ヨーロッパではリネンや羊皮紙が用いられ、紙文化の好対照をなしている。東洋文庫所蔵資料は時代的にも空間的にも、世界のアジア関連の書籍資料の全体をカバーしており、紙料の標本と紙質の標準を提示するにふさわしい研究を行う条件が整っている。

三桮（みつまた）



朝鮮珍花彙集（大坂、1815） ×200

本研究項目は、全研究班が参画する総合アジア圏域研究によるアジア基礎資料研究において、東洋文庫をはじめ国内外の文献資料の研究・保存修復・公開（閲覧・展示）を目的に紙質調査を行い、時代・地域と関連づけた紙質分析データのマトリックスを作成し、国際標準として国内外に発信することを目指している。和漢書・洋書など対象となる資料は膨大かつ多岐にわたることから、紙料データの収集の効率化・充実化を実現するために、最新型の精密顕微鏡（デジタルマイクロスコープ VHX7000 型）をリース使用して調査を行う。

II. 資料収集・整理

資料収集においても、国内の資料館・図書館と連携し、アジア関連紙料の調査及び整理を進めることで、東洋文庫が作成する紙質分析データのマトリックスの一層の充実を図る。また海外の連携研究機関と協力して紙質調査を行い、東西比較に基づく国際的な紙料の分析・分類を行う。同時に、様々な素材・地域で書写・印刷された資料に対して最適の修復・保存方法を検討・実施する。

III. 資料研究成果発信

文理融合型アジア資料学研究シリーズとして、これまで開催してきた講習会・講演会・研究会をより幅広い時代・地域を対象に開催し、紙質そのものの歴史的特徴のみならず、同時代における文献・書物の格式と、用いられた紙との関係性を明らかにし、紙料に託された社会的役割を吟味する。また、東洋文庫所蔵資料の紙料をもとに作成された紙質分布データベースが、国際的な標準たり得るよう、国内外の資料館と連携して、より一層の充実を図ることも必要不可欠である。

IV. 普及活動

紙料調査は単なる素材分析にとどまらず、紙の特徴から版本の刊行された時代・地域・文化的背景を特定することができる。その成果を、講習会や展示会等の普及活動を通して対外的に発信することで、紙料研究の重要性に対する認知度が高まり、紙とアジアの深いつながり

りに対する社会的な関心を喚起することができる。また、接写用デジタルカメラを使って資料の特徴を簡易的に捉えることもできるので、この方法を対外的に広めることで、アジア諸地域の歴史資料の収集・整理・保存修復に取り組む資料館や、それらを用いて研究する若手研究者の育成に大きく貢献することができる。

最後に、本年度より開始した「東洋文庫奨励研究員制度」は、若手研究者の育成および雇用促進のための体制を一層充実させるものであり、ひいては、東洋文庫の事業の安定的・継続的な実施を可能にし、かつ東洋学の伝統の継承と発展に大きく寄与するものである。

I. アジア基礎資料研究

2018年度より、従来のアジア各地域の特徴に沿った研究班・研究グループ主体の調査研究を、研究部執行部の主導のもとに統括され、資料の収集、保存、公開、研究が一体化した、東洋文庫の学問的伝統と蓄積、および国内外の研究ネットワークを継承・発展させる研究体制に改編し、「紙料」調査を中心としてアジア諸地域を横断的に比較総合する「アジア基礎資料研究」に重点を置くこととした。具体的には、研究部執行部が統括する5つの重点事業目標（前掲「概要」の「Ⅲ 2018～2020年度の重点事業目標」を参照）に基づき、西は北アフリカから東は日本までをカバーする全6研究部門13研究班が、20の基礎資料研究テーマ（p.21「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」を参照）を設定して相互に連絡・連携を保ちながら、東洋文庫が収集・所蔵する一次資料の文献学的分析（解題・目録・訳註等の作成）と、それに基づく「紙料」研究を持続的に推進した。これらの研究班・研究グループの諸活動は「総合アジア圏域研究」のもとに連結することで、アジア諸地域の歴史と文化の地域連関と相互影響について、アジア全体を視野に入れた学際的共同研究を推進し、現代アジアの複合的・動的な把握につとめ、その研究成果を、講演会、刊行物、オンラインジャーナル、研究データベース、ミュージアム展示など多様な方法で発信、公開、普及すべく取り組んだ。

(1) アジア基礎資料研究の構築と、それによる現地研究機関との共同研究の新展開

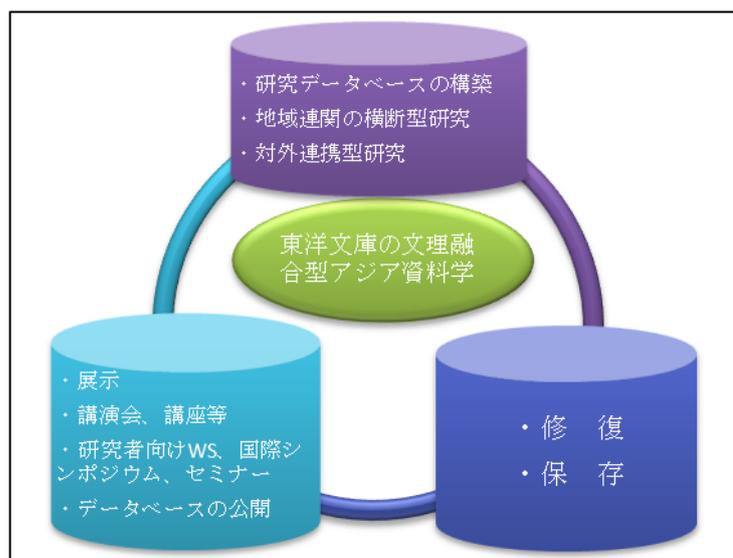
担当：會谷佳光
相原佳之
小澤一郎
太田啓子

東洋文庫は、国内外を通じて、専門の保存修復室を持つ数少ない研究機関の一つである。資料の素材調査の目的とその意義は、東洋文庫における研究活動・閲覧公開・ミュージアム展示などのすべての局面において、日常的に調査を実施して、その成果を蓄積し保存修復に活用することで、東洋文庫が収集した古今東西の貴重資料を永く後世に伝承することにある。さらに、その成果を研究データベース化して広く発信することで、国内外のアジア関係資料を連携して保存修復・研究・伝承することに貢献することが可能となる。すなわち資料の素材調査と研究データベースによる成果発信は一体不可分であり、東洋文庫が研究図書館として取り組む特色ある研究活動の中心をなす課題であると言える。

東洋文庫では、故藤枝晃京都大学名誉教授による敦煌出土文書の古写本研究を基礎に、藤枝氏の学問を継承する石塚晴通研究員と、元龍谷大学の理系研究者で精密顕微鏡による敦煌文書等の紙質分析で成果を上げてきた江南和幸研究員の指導のもと、2012年度以来、東洋文庫の蔵書を使った素材調査をアジア各地域の資料に対して実施する研究を行い、データの蓄積を進め、それらの成果を継続的に公開講座「アジア資料学研究シリーズ」などを通して明らかにしてきた。

とりわけ強調すべき点は事業遂行のための実施体制の確立である。今回の事業計画の中核をなす紙質研究は、研究者個人の経験と熟練に依拠し、国・地域・言語で

分断された従来の書誌学の限界を克服すべく、すべての研究班・研究グループの参加の下にア



アジア各地域の紙料情報を系統的に調査収集し、東洋文庫所蔵資料の科学的検討に基づいて相互に比較分析しつつ、古今東西のアジア関連資料の紙質につき東洋文庫から発信する総合的な国際的分析標準を作成し、地域文化の表象である紙をめぐる「知識」の交流史研究に資する点に重点を置いている。

〔研究実施概要〕

資料のデジタル化公開等による電子図書館の機能を混在させた図書館のハイブリッド化が進む中、資料の現物(書籍・地図・絵画・考古遺物・陶器等)からしか読み取れない情報(紙・墨等の素材や生産された地域・時代等)を分析・研究・蓄積・公開していくことは、アジア・ヨーロッパの様々な時代・地域の資料を所蔵する東洋文庫だからこそ実現可能な研究課題である。

総合アジア圏域研究では、紙質調査の一環として、モリソンコレクション『東洋見聞録』を調査し、7月7～8日開催の日本文化財科学会第35回大会で「東洋文庫モリソンコレクションの最初期『東方見聞録』ヨーロッパ各国語刊本の印刷と紙」というタイトルでポスター発表を行い、9月14～18日、ウィーンで開催された“El'Manuscript-2018:7th International Conferences on Textual Heritage and Information Technologies”に参加し、東洋文庫におけるコーディコロジー研究について報告した。紙質調査の一般への普及を目的に、国宝『毛詩』をはじめ、13世紀刊行の高麗大蔵経、18世紀にトルコで刊行された『世界の鏡』などの紙質調査を行い、その結果を東洋文庫ミュージアムで展示した。今後も書物の文字資料としての側面だけでなく、紙質調査の成果を活用した「モノ」としての書物の紹介に取り組んでいく。

2019年度よりリリース開始予定の最新型精密顕微鏡の保管体制に万全を期すため、東洋文庫館内に紙質調査用の個室を設置し、環境整備を進める一方、若手研究者を中心に、書誌学者・歴史学者・保存修復技術者・情報学専門家からなる紙質調査チーム(下表を参照)を結成し、調査体制を充実させた。また、サンプル調査のための紙譜(紙の素材資料集)、古今東西の古典籍、紙に関する辞書・研究書・図録等の収集に務めた。これを受けて、3月11日に紙質調査チームによる打ち合わせを行い、当面の課題や2019年度以降の研究計画について討議した。

| 役割 | 担当者(所属・職名) |
|-----------------|------------------------------------|
| 総括 | 會谷 佳光(研究部主幹研究員) |
| 研究データベース企画立案 | 相原 佳之(研究部嘱託研究員) |
| 研究データベース・システム開発 | 中村 覚(研究協力者、東京大学情報基盤センター学術情報研究部門助教) |
| 調査全般・技術指導 | 徐 小潔(普及展示部嘱託研究員) |
| 満洲語文献の調査 | 多々良圭介(研究部奨励研究員) |
| 漢籍・洋書の調査 | 段 宇(研究協力者) |
| 和漢書・洋書の調査 | 水口 友紀(研究協力者、図書部保存修復臨時職員) |
| ちりめん本等の調査 | 田村 彩子(研究協力者、図書部保存修復臨時職員) |
| 調査研究顧問 | 江南和幸(東洋文庫研究員) |
| 調査研究顧問 | 石塚晴通(東洋文庫研究員) |

5月21日(月)、2018年度第1回地図研究会を開催し、杉本史子氏(東京大学史料編纂所教授)を招いて、“Political Cartography during the Tokugawa Era Oxford Research Encyclopedia of Asian History”の題目で報告いただいた。

現代中国研究では、東洋文庫近代中国研究委員会編『明治以降日本人の中国旅行記(解題)』(東洋文庫、1980年)の続補として、東洋文庫所蔵の戦後日本人による中国旅行記(1949～89年)の目録・解題の作成に着手し、全体の約4分の3まで調査を終えた。資料グループを中心に、東洋文庫所蔵のモリソンコレクションの資料学的・歴史学的研究を通じて、モリソンのコレクション全体、とりわけモリソンパンフレット(清仏、日清、日露戦争から北洋軍閥期に至る中国の政治過程および国際政治・経済・社会動態の詳細記録)を精緻に分析することを目指して、新たに若手研究者を中心に9名のメンバーを迎えた。5月19日に開催した研究会において、中国におけるモリソンの活動に着目して、モリソンパンフレットを含むモリソンコレクションがいかにか当時の東アジア社会を反映しているかを考察する方針を定め、モリソンと宣教師の関係を新たな研究の突破口に設定して共同研究を進めた。

現代イスラーム研究では、地域や国別に進展しがちな研究をより深化させるため、画期となる事件や事象を、地域や国を横断する構造変動と連関づけて議論することを目的に、2015年度以来「近現代の構造変動」セミナーを開催している。2018年度は、3月18日に第6回「近現代の構造変動」セミナーを開催して、黛秋津氏（東京大学大学院総合文化研究科准教授）を講師に迎え、「ヨーロッパ列強のバルカン進出の中の領事館—18世紀後半ドナウ両公国におけるロシア領事館開設問題を中心に」と題する報告を行い、塩谷哲史氏（筑波大学人文社会系助教）がコメントを行った。これによって、バルカンにおける構造変動の諸論点や諸課題がグループを横断して共有された。「シャリーアと近代：オスマン民法典研究会」はオスマン民法典（メジエツレ）のアラビア語版の1007条までの日本語翻訳・検討を行うとともに、語彙集の作成を並行して進めた。メジエツレ研究の専門家で、神戸大学に客員講師として滞在中の Ahmet KILINÇ 氏（Assistant Professor, AYBU Faculty of Law, History of Law Lecturer）を招き、第3編（保証）の翻訳に関する討論に参加し、オスマン帝国におけるメジエツレの法制史上での意義について解説していただくなど国際共同研究を推進した。

東アジア研究では、前近代中国・近代中国・東北アジア・日本の4研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

前近代中国研究班では、東洋文庫所蔵の豊富な中国地方志資料および東洋文庫のインターネット機能を活用して継続してきた『水経注疏』巻16の精読を完了し、続いて巻10漳水篇の試読を開始し、研究員5名を派遣して濁漳水・清漳水の現地調査を行うとともに、張家山漢簡『二年律令』津関令の講読とそれに関わる研究発表を行った。研究会には東洋文庫外国人客員研究員として1年間滞在された張新超氏（西南大学歴史文化学院民族学院）に加わっていただき、帰国後も研究情報のやり取りなどの交流を継続した他、東京学芸大学に留学中の北京師範大学大学院生の参加も受け入れた。また本務校のサバティカルにより1年間上海で在外研究を行った塩沢裕仁研究員が国外の研究者と共同研究を進める上での橋渡し役となった（【東ア-1】。なお、略号については、p.21「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」を参照。以下同）。

朝鮮半島における原三国～三国時代（馬韓・百濟）の集落および山城関連資料について、とくに近年発掘調査が盛んな韓国中部地域の忠清道を中心に発掘調査報告書の収集を行った。また、忠清北道清州市井北洞土城、同松節洞遺跡、同忠州市弹琴台土城の現地調査を行うとともに、忠北大学校博物館で井北洞土城出土品、国立清州博物館で弹琴台土城出土品の資料調査を行い、現地研究者との意見交換を行い、最新出土資料に関する情報を得ることができた。この他、国立中原文化財研究所、清州百濟遺物展示館、忠州高句麗碑展示館、忠州博物館、国立中央博物館等で三国時代出土資料を見学した（【東ア-2】）。

研究員大澤正昭氏が代表として採択された科学研究費基盤研究(C)「宋～明代日用類書の基礎的研究」(2015～18年度)と連携して、明清時代の法制書、日用百科全書、農業書の研究を深めることを目的に、明代の〈日用類書〉『新刻天下四民便覧三台萬用正宗』巻8律令門附載「招擬指南」の訳注作成に協力するとともに、同書巻22算法門の訳注作成をほぼ完了した(2019年度リポジトリ公開<http://id.nii.ac.jp/1629/00006739/>)。同書巻21商旅門もほぼ訳注作成を終え、原稿の補訂作業に入った。これらの研究成果は、「斯波義信先生文化勲章受章記念2018年度前期東洋学講座」において「中国日用百科全書の世界：商売・算術・裁判」をテーマに、斯波義信・渡辺紘良・大澤正昭三氏が広く一般に向けて講演した(題目等詳細は、IV.普及活動-A. 研究情報普及-2. 東洋文庫公開講座・公開研究会を参照)（【東ア-3】）。

近代中国研究班では、戦前・戦中期の日本語資料等を大量に保存する中国の研究機関、特に台湾の中央研究院および中国の国家図書館との共同研究を推進し、国際交流の強化に取り組むとともに、当時の台湾における日本の調査機関について、行政機関のみならず台湾銀行等の民間組織も含めて調査を実施した（【東ア-5】）。

東北アジア研究班では、近世の朝鮮で作製された各種記録類を対象に、東京大学総合図書館所蔵資料の書誌学的調査を行ったほか、韓国に研究員を派遣して現地研究者との情報交換や大学図書館等での文献調査を実施した。データベース化に向けて、既刊『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』（東洋文庫、2004年）および『日本所在近世朝鮮記録類解題』（東洋文庫、2009年）を編集した際の調査データ（電子データと手書きのノート類）の整理を行った（【東ア-6】）。清朝満洲語文書資料、とくに東洋文庫所蔵の「鑲紅旗檔」（鑲紅旗満洲都統衙門檔案）、及び「鑲白

旗檔」(鑲白旗蒙古都統衙門檔案)をはじめとする諸資料に関する研究を行うとともに、吉林師範大学満学研究所との研究交流を積極的に進め、具体的な共同研究について交渉を行った(【東ア-7】)。海外より書写収集した八旗満洲文史料類のうち、日本に所蔵のない旗地に関わる満洲文史料『旗地則例』類の読解・検証作業を進めるとともに、東洋文庫所蔵の孤本、清代『壇廟祭祀節次』に対する研究成果をデータベース化するための読解・検証作業を進めた(【東ア-8】)。

内陸アジア研究では、中央アジア・チベットの2研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

中央アジア研究班では、東洋文庫が所有するロシア・サンクトペテルブルクの IOM(Institute of Oriental Manuscripts)所蔵古文書のマイクロフィルムのカatalog整備を継続してきた。このカatalogデータのうち、主にテキスト内容と断片接合情報および研究レファレンスの更新作業を継続した。この作業は、19世紀末～20世紀初頭を中心とする中央アジア探検時代に各国が入手した古文書を研究資料として活用するための基礎資料研究の世界的潮流に繋がっていると同時に、IOMで開始されたカatalog作成と必然的に連動することとなった(【内陸-1】)。国際テュルク・アカデミー(トルコ系諸国の教育・研究分野での協力・強化を目的に、2010年に発足したカザフスタンの国立機関)との間で研究協力協定を締結し、この協定に基づき、近年の日本における中央ユーラシア史研究の成果(研究書・史料研究などの刊行物)を寄贈し、今後の共同研究のための基盤を整備した。また、7月18日(水)、David Brophy氏(シドニー大学上級講師)による特別講演会を実施し(IV.普及活動-A.研究情報普及-3.特別講演会を参照)、12月27日(木)開催の第42回中央ユーラシア研究会では東洋文庫の濱本真実・佐々木紳両研究員が研究報告を行った(【内陸-2】)。

日本はかつて敦煌・吐魯番文書やその文物の研究で世界をリードしてきたが、今日では衰退傾向にある。この現状を変えて再び世界をリードしていくためには、共同研究を着実に進め、中堅・若手研究者を一人でも多く育て、研究成果を発表していくしかない。東洋文庫はこの分野で多くの文書研究の成果を上げているものの、戦前、日本国内の諸機関や個人に所蔵されてきた多数の文書類について、その所蔵状況や内容の系統的把握と集約が十分でない点が課題として残っていた。中国ではこの課題に着手し始めているが、本来はこれは日本側の研究者が責任を持ってなすべき仕事である。そこで、2018年度は、濱田徳海氏(1899～1958)旧蔵の敦煌関係文書について、その全容の把握に努めた。これは大蔵官僚であった濱田氏が戦中戦後にかけて私財を投じて購入した全180点余の敦煌文書コレクションであり、その死後一部は国立国会図書館に購入されたが、未購入に終わった残りの大部分が近年中国に流出することになった。東洋文庫は濱田氏の死後まもなく本コレクションの扱いと整理に関与した経緯もあって、本班のプロジェクトとしてその整理と考察を行い、5月18日(金)開催の内陸アジア古文献研究会で報告を行い、その研究成果を2019年度に刊行する計画を立てた。また、長年敦煌文書の研究に従事してきた土肥義和研究員が残された膨大な文書整理ノートが2017年度に寄託された。これらは敦煌文書の研究に貴重な手がかりとなる調査ノートであり、その全容把握とデータベース化を2017年度に計画し、2018年度は若手研究者の協力を得て部分的に作業を進めた。研究活動の拠点として、内陸アジア古文献研究会を全9回開催した。そのうち第7回・第8回は来日中の外国人研究者による特別講演会として(IV.普及活動-A.研究情報普及-3.特別講演会を参照)、第9回は内陸アジア古文献研究会の春季大会として(IV.普及活動-A.研究情報普及-2.東洋文庫公開講座・公開研究会を参照)、広く公開して行った(【内陸-3】)。

チベット研究班では、チベットの歴史、言語、宗教(仏教・ボン教)、社会に関する一次資料の基礎研究として、ウパロセル編纂『大蔵経テングユル目録』、トゥカン著『西藏仏教宗義』、中央アジア出土チベット語文献、シャン・タンサクパ著『中観明句論註釈』を研究した。このうちウパロセル編纂『大蔵経テングユル目録』については、御牧克己研究員、宮崎泉氏(京都大学教授)、オルナ・アルモギ氏(ハンブルク大学研究員)が国際共同研究を進め、成果の刊行準備を進めたほか、トゥカン著『西藏仏教宗義』第11巻、シャン・タンサクパ著『中観明句論註釈』第3巻の刊行準備を行った(【内陸-4】)。

インド・東南アジア研究では、インド・東南アジアの2研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

インド研究班では、12~16世紀北インドのヒンドゥー王権の銅板文書を中心とした史料研究、近世ムガル帝国の史料目録作成の一環としての公文書の研究、南インド10~16世紀のヒンドゥー王権の公文書（碑文・銅板文書）を中心とした史料研究を行うとともに、研究員各自の研究分野での近年の研究を中心とした文献目録の作成に取り組んだ。南インドに研究員を派遣して史料の収集を行うとともに、現地の研究者と交流して近年の研究動向に関する情報を集めた。東洋文庫所蔵の文献研究の成果の一端として、太田信宏研究員を中心に「インドの叡智展」（会期：2019年1月30日～5月19日）の企画準備に協力した（【南ア】）。

東南アジア研究班では、近世の東南アジアと周辺世界との関係を理解する上で重要となる、17世紀終わりから18世紀前半の時期に東南アジアを訪れたイギリス人私貿易商人 Alexander Hamilton の旅行記 *A New Account of the East Indies*, 2 vols, edited with Introduction and Notes by William Foster (London 1930) に着目し、Foster による Introduction と Hamilton の東南アジアをめぐる記述（アラカン～ボルネオ：vol. 2, pp. 15～63）を、研究会で輪読した。その記述の内容と特質を検討しつつ、当該地域をめぐる他の文献史料と比較するとともに、Hamilton の訪れた場所とその時期、そこで起こった事柄、その地域の特質、交易品、当該地域をめぐる他の文献などを記録したデータシートを作成した。2018年度までの活動を踏まえ、2019年度に TBRL として *The Development of Urban Society in Southeast Asia from Historical Perspectives* のタイトルで、研究成果を英文で出版すべく準備を進めた。また前近代の都市の役割を検討するための重要な資料となる、東洋文庫所蔵の故仲田浩三氏収集にかかわる東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料の整理を進めた。その目録『東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料』を2019年度に出版すべく準備を進めた（【東南】）。

西アジア研究では、東洋文庫が2015年に購入したヴェラム文書（モロッコの皮紙契約文書）11点について、月例および集中研究会を開催し、うちフェスで作成された7文書について、アラビア語文書のテキスト校訂および概要作成を終了した。ヴェラム文書研究第1期8点と関連する文書もあり、契約文書の作成プロセスや保管・利用とともに、不動産（農園など）の相続や経営のあり方についての検討を進めた。2017年12月にモロッコ（ラバト）でアラビア語で発表したヴェラム文書研究第1期の成果をまとめた5本の論文がモロッコ刊行の電子ジャーナル *ribat al koutoub* に掲載された（<https://ribatalkoutoub.com/?p=2953>）。2019年度にヴェラム文書研究の第二期として、上記のフェス関係7文書について、アラビア語テキストの校訂と英文による解説・研究を内容とする研究書 *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries : Part II* を刊行すべく準備を進めた。また、これまでの研究成果である *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries : Part I* (TBRL15, 2015) および *Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations* (TBRL19, 2018) を東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開し、海外からの関心を呼んでいる（【西ア】）。

資料研究では、台湾の中央研究院歴史語言研究所との交流協定（2015～2020年度）に基づき、2018年度も東洋文庫から洋書10,000コマの画像データを提供した。それと引き換えに同研究所から漢籍文献資料庫（1,185タイトル、約7億字からなるデータベース）の提供を受けた。

各種研究会・講演会の開催状況は、下記のとおりである。

| 件数／人数 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| 研究会数 | 26 | 24 | 30 | 32 | 10 | 21 | 28 | 26 | 27 |
| 参加人数 | 190 | 176 | 312 | 297 | 49 | 140 | 202 | 222 | 298 |

| 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-----|-----|-----|-------|
| 21 | 26 | 31 | 302 |
| 212 | 142 | 222 | 2,462 |

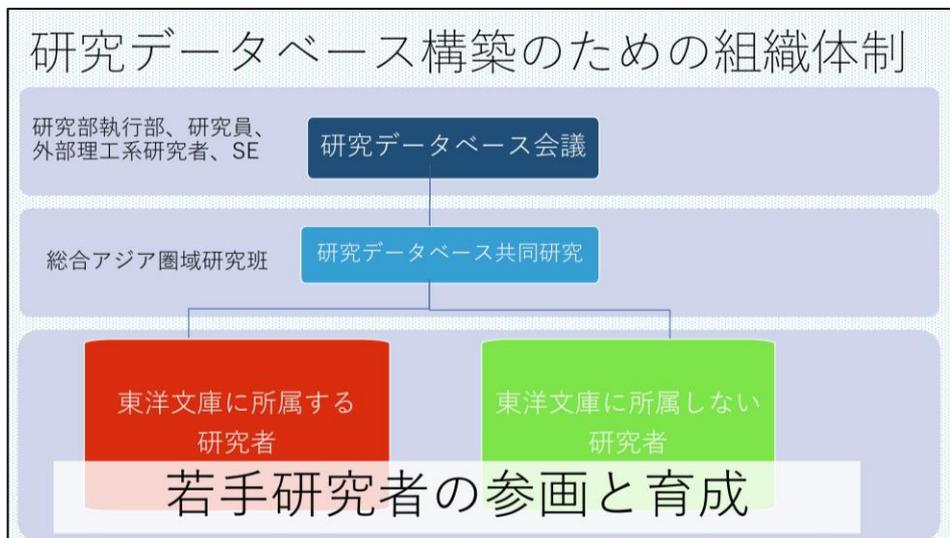
(2) 総合的アジア研究データベースの推進（開発期）

担当：會谷佳光
相原佳之

全研究班が参画する総合アジア圏域研究では、研究部執行部の研究データベース共同研究担当者が中心となって研究データベースの構築をより一層推進するため、9月20日（木）、研究情報発信検討委員会を開催した。委員会では、研究情報発信検討委員会を改編して、研究データベース会議を

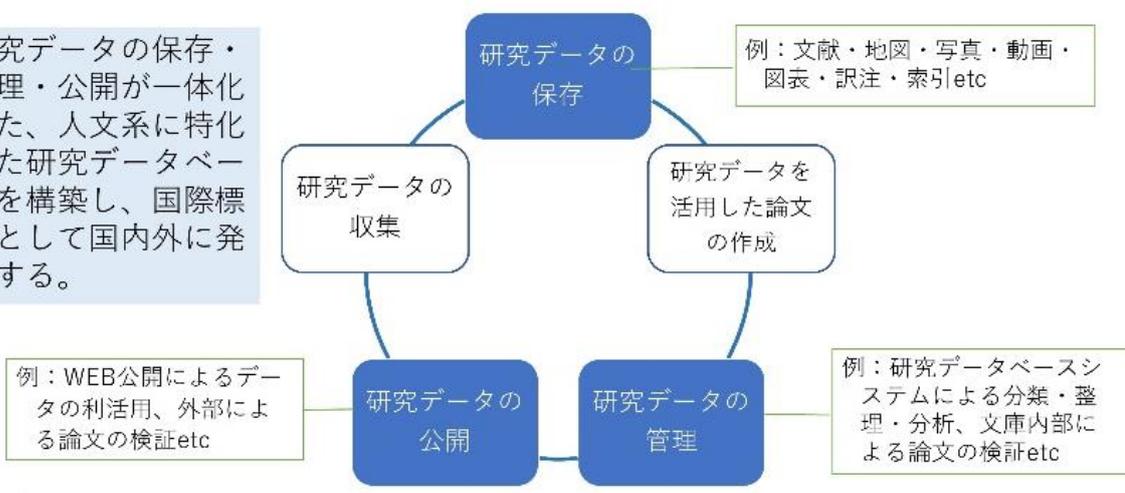
発足することが承認され、研究データベースのコンセプト（會谷）、進捗状況（會谷・相原）について活発な意見交換が行われた。出席者は、文庫研究員9名、外部研究協力者1名であった。今後、年2～3回を目途に研究データベース会議を開催し、文庫の研究員に限定せず、研究班・研究グループの枠組みを超えて、広く研究者、特に若手研究者の参加を歓迎することとした。

研究部の取り組む研究データベースは蔵書資料のデジタル化とは異なり、東洋文庫の研究員・研究班の長年にわたる資料調査・研究活動の研究成果（論文、著作、索引、訳注、図表など）およびその副産物として収集・作成された研究データ資源を、保存・管理・公開するためのデータベース・システムであり、研究データベース会議を基盤に、中村覚氏（東京大学情報基盤センター学術情報研究部門助教）と協同してシステム開発、およびデータ収集・整理に取り組んでいる。



研究データベースのコンセプト

研究データの保存・管理・公開が一体化した、人文系に特化した研究データベースを構築し、国際標準として国内外に発信する。



研究データベース全体のタイムスケジュールについては、2015～2017年度の試行期を経て、2018～2020年度は、第二段階の「開発期」に位置づけ、研究データベース会議を基盤に研究データベースの開発を進め、共通のフォーマットに基づくプラットフォームを持ち、地域横断的かつ通時代的な汎用性の高い横断検索システムを完成させ、システム開発、およびデータ収集・整理に取り組み、2020年度までの公開を目指している。画像データはIIIF準拠とするなど、国立情報学研究所（NII）、アメリカのハーバード・エンチン研究所等、国内外の関係諸機関との連携も視野に入れる。2021年度以降は、第三段階の「発展期」に位置づけ、各研究データベースのデータの拡充、システムの改修に不断に取り組んでいく。



従来、東洋文庫の刊行物は随時デジタル化して東洋文庫リポジトリ「ERNEST」にて公開してきたが、新システムへの移行を行った（2018年9月11日公開。https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/）。これはクラウド型の機関リポジトリ環境提供サービス「JAIRO Cloud」を利用したシステムで、旧リポジトリで公開されていた論文等をすべて収録した上で新たに登録を進め、3月末時点での論文等の登録件数は計3,917件に達した。

なお、学術情報のオープンアクセスの活発化と、その受け皿として機関リポジトリの活用が期待されている

流れを受け、東洋文庫でも、今後この新リポジトリを、研究員の研究成果やその副産物を登録できる受け皿の一つとして活用しつつ、国立情報学研究所（NII）が構築を目指す「研究データ基盤」の動向を注視しながら、これらを研究データベースと連動させる形で運用していくための検討を開始し、そのためのリポジトリ運用方針の策定に着手した。また東洋学講座等の講演会の情報や動画を登録する講演会アーカイブ（http://124.33.215.234/lecture/）については、「ERNEST」に統合すべく検討を開始した。

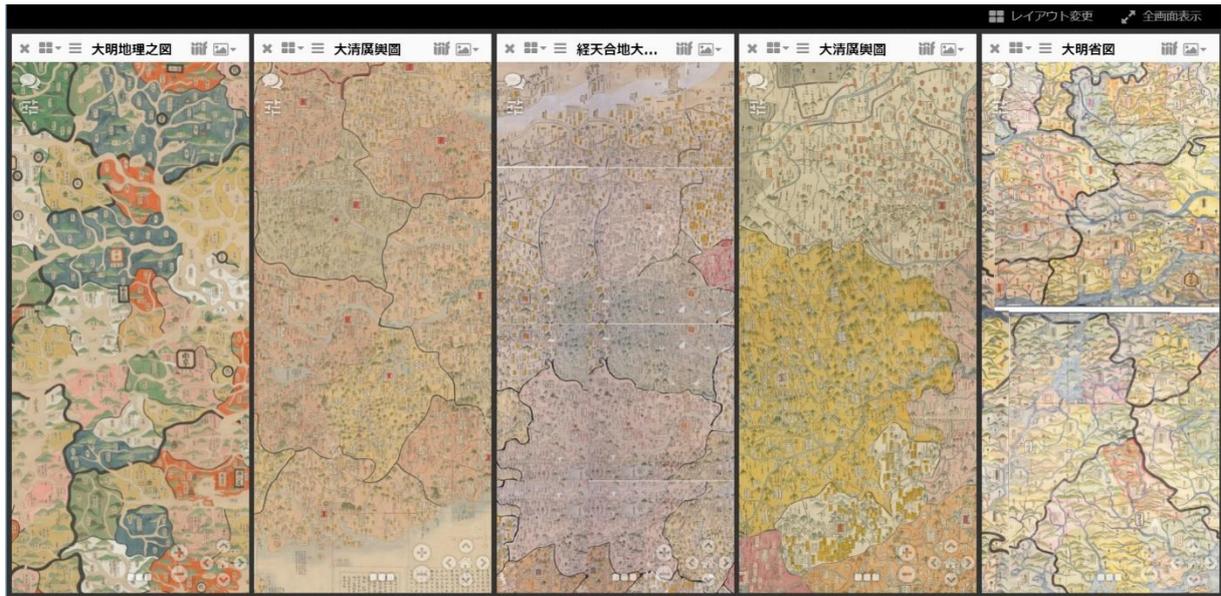


2018年度東洋文庫リポジトリ「ERNEST」利用統計

| 期 間 | 検索 | 閲覧 | ダウンロード* |
|---------|--------|--------|---------|
| 2018年9月 | 304 | 976 | 820 |
| 10月 | 640 | 2,815 | 7,016 |
| 11月 | 597 | 1,972 | 2,540 |
| 12月 | 7,501 | 10,284 | 4,967 |
| 2019年1月 | 917 | 2,930 | 4,547 |
| 2月 | 7,990 | 12,027 | 5,992 |
| 3月 | 906 | 3,044 | 6,033 |
| 合 計 | 18,855 | 34,048 | 31,915 |

〔研究実施概要〕

『大明地理之図』4軸（細谷良夫研究員寄贈、江戸時代書写）のデジタル化を実施した。中村覚氏と共同して、この高精細デジタル画像と研究データを連動させたプロトタイプ版を開発し、2018年度総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research”において、デモンストレーションを行った（右写真を参照）。なお、東洋文庫リポジトリ「ERNESET」にてデモンストレーションを再現した動画“Usage of Digitized “Daimin-chiri-no-zu”（大明地理之図）”を公開した（<http://id.nii.ac.jp/1629/0000705>）



III F による古地図の比較対照システム（中村覚氏作成）

5/）。

現代中国研究では、東京大学総合文化研究科国際社会科学専攻図書室所蔵の「片倉衷関係文書」の調査研究チームを立ち上げ、これを近現代日中関係史研究の資料として一層活用するためにデジタル化を進め、その前半部分の撮影を終え、このデータベースを東洋文庫のサーバーからも利用可能とする方針を決定した。デジタル撮影は2019年度完了の予定。

現代イスラーム研究では、「日本における中東・イスラーム研究文献 DB」のアップデートを日本中東学会と連携して継続し、1,100件の新文献を「イスラーム地域研究資料室サイト」に掲載し、データベース文献総件数は57,320件（3月末）となった。年間のアクセス数については、後掲の「2018年度研究データベース・アクセス数」を参照。また、中東・中央アジアの歴史的に重要な諸法令を翻訳して順次データベース化し、東洋文庫のWEBサイト上で公開する作業の一環として、トルコグループでは粕谷元編『トルコにおける議会制の展開』（東洋文庫、2007年）所収のオスマン帝国憲法（1876年）・トルコ共和国憲法（1924年）、ならびに八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳イラン・エジプト・トルコ議会内規』（東洋文庫、2014年）所収のトルコ大国民議会内規（1927年）を必要に応じて改訳するとともに、これらに注釈と解題を付す作業を進めた。イラングループでは、イラン憲法（1906年基本法と1907年補則）を新規に翻訳するとともに、その注釈を作成した。アラブグループでは、エジプト憲法（1923年）の新規翻訳作業に着手した。これらの作業のために、グループ別の訳文検討会（イラングループ1回、アラブグループ6回）およびイラン・アラブ・トルコグループ合同の研究会（1回）を開催した。

東アジア研究では、朝鮮半島の原三国時代～三国時代の集落および都城のデータベースの構築に着手し、現地調査を行った忠清北道地域を中心に画像データを含むデータベースの作成

を行った（【東ア-2】）。中国史の唐宋から元明清にわたる経済、社会、法制の基層における実態・実相を解明するための基礎作業として、〈時期や事例ごとに特別の意味・用法において用いられる術語・用語の解釈〉に焦点を当てた研究を行った。既存の辞書のほとんどは伝統漢学を解説する工具として編纂されており、中国経済・社会・法制史の研究者が広く日常的に使える用語解はこれまでなかった。東洋文庫は創設以来、中国の社会経済史料を訓読し、公私の制度背景に照らしながら註解を付する《歴代正史食貨志訳注》作成事業を継続してきた。本研究はその蓄積を承けるとともに、対象分野・史料において財政、経済、社会のほか法制を加え、月例の研究会で宋～清代を専門とする若手を含めた研究者多数の参加を得て訓読・註解を行い、さらに蓄積された用語解の版下原稿を作成する作業を進め、成果を順次研究データベースとして公開することを目指している。2018年度は、『中国社会経済史用語解』〈法制篇〉Ⅰの約1万語に上るデータ入力をほぼ完了し、研究データベース公開に向けての分類、解説文章の補訂等の追加作業を継続した（【東ア-3】）。大島立子編『前近代中国の法と社会 成果と課題』（東洋文庫、2009年）所収の小川快之編「宋—清代法秩序民事法関係文献目録」について、現在までの8年間の関係文献の情報を増補し、これまでの目録情報と併せてデータベース化するための準備を進めた（【東ア-4】）。

近代中国研究班では、東洋文庫所蔵の華中・華南地域に関する戦前・戦中期日本の調査研究機関に関する資料の分析、および機関目録のデータベース化の検討を行った（【東ア-5】）。

東北アジア研究班では、いままで所属研究員が1980年代以降に実施した、中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、ロシア極東等における調査の画像・映像資料等に対して整理・研究を行った。2018年度は、これら中国各地で集積した満族（清朝）関係の画像・映像データ、パンフレット、地図等の資料を、体系的に整理・研究して、データベース構築の初期的な準備作業を実施した。紙質調査を中心とした基礎資料研究の資料として、『東洋文庫所蔵鑲紅旗檔光緒朝目録』（東洋文庫、2006年）をPDF化し、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」（<http://id.nii.ac.jp/1629/00006506/>）で公開した（【東ア-7】）。クリスチャン・ダニエルズ研究員が中国雲南省で収集して東洋文庫に寄贈した碑文資料162件について目録整理、碑文の翻字を進めるとともに、未撮影資料6点のデジタル撮影を実施した（【東ア-8】）。

日本研究班では、2018年度刊行の『岩崎文庫貴重書書誌解題IX』収載資料の図版をデジタル撮影した。そのうち『暁斎翁筆能画図式』1冊、『寶生太夫勸進能』2軸については、全頁カラーデジタル撮影を行った。これらは、今後、東洋文庫のデータベースにて公開する予定である（【東ア-9】）。

内陸アジア研究のうち中央アジア研究班では、IOM (Institute of Oriental Manuscripts) 所蔵古文獻マイクロフィルムのデータベースが公開利用に耐えられるように改修を進める一方、東洋文庫共同研究室内での使用に限定されている現状を打開すべく、IOM との交渉を進めた。その結果、IOM でカタログ作成に従事する若手研究者との間に連携体制が構築され、東洋文庫とIOM 双方の研究成果を合体させる形でカタログを共同編集して出版する方向で合意形成が進んだ。これによって、これまで東洋文庫内で蓄積されてきた研究成果を、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」上で世界に対して効果的に発信する見通しが立った（【内陸-1】）。チベット研究班では、東洋文庫所蔵河口慧海請来チベット語文献のデータベース化を推進し、『宝積部』全6巻中4巻（全体の51～54巻に当たる）の画像撮影を行った。また、河口慧海請来チベット語蔵外文献写本の電子テキストを作成して、そのうち2点を Tibetan E-Texts として東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開した（Tibetan Digital Library : https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1140、Tibetan E-Texts : https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1175）（【内陸-4】）。

資料研究では、現地調査によって得られた写真・録画・文献資料の電子データ化、及びデータベース化とその公開を実施した。

（一）写真

梅原考古資料26,000枚につき、年次計画に従って電子化・公開に着手し、第1年次分として梅原考古資料（日本縄文時代の部）1,980枚をデータベース化して公開した（山村義照研究員担当、登録制）。

(二) 動画

年次計画に従って2018年度分の電子化・公開を実施した。

(1) ①中国祭祀演劇関係動画（田仲一成研究員撮影）

広東儀礼21分、徳教儀礼106分、徳江追儼戯308分、安順地戯広東戯378分、莆田目連戯224分、祁陽目連戯350分、関索戯20分、大酬雷23分、合計1,430分（23時間）を公開した。

②浙江省木偶戯関係動画（馬場英子研究員撮影）

白兔記312分（5時間）を公開した。

(2) 中国地方劇録音カセットテープ（田仲一成研究員蒐集）

1,829場面を音声デジタル化して公開した（登録制）。

2018年度研究データベース・アクセス数

| データベース名 | 中国経済史用語 DB | 宋会要輯稿食貨編社会経済用語 DB | 梅原郁編『唐宋編年語彙索引』DB | 新版唐代墓誌所在総合目録（増補版）DB | 日本における中東・イスラーム研究文献 DB |
|---------|------------|-------------------|------------------|---------------------|-----------------------|
| 2018年4月 | 10,148 | 13,851 | 4,824 | 4,633 | 2,134 |
| 5月 | 10,491 | 14,321 | 4,990 | 4,085 | 2,148 |
| 6月 | 10,032 | 13,610 | 4,874 | 4,433 | 2,291 |
| 7月 | 10,373 | 14,068 | 5,038 | 4,586 | 1,880 |
| 8月 | 10,375 | 14,095 | 5,055 | 4,591 | 1,496 |
| 9月 | 10,045 | 13,641 | 4,900 | 3,452 | 605 |
| 10月 | 10,489 | 14,111 | 5,070 | 1,568 | 1,304 |
| 11月 | 10,152 | 14,658 | 4,921 | 1,519 | 952 |
| 12月 | 10,552 | 15,227 | 5,120 | 1,585 | 1,674 |
| 2019年1月 | 10,599 | 15,434 | 5,155 | 1,689 | 1,026 |
| 2月 | 9,586 | 13,958 | 4,672 | 1,547 | 584 |
| 3月 | 15,599 | 21,070 | 5,183 | 2,722 | 697 |
| 合計 | 128,441 | 178,044 | 59,802 | 36,410 | 16,791 |

(3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進

担当：會谷佳光

相原佳之

太田啓子

上記(1)(2)の諸活動によって得られた最新の研究成果を、国際シンポジウム・ワークショップを開催して、広く国際的に発信することで、世界のアジア研究の進展に大きく貢献すべく取り組んだ。その一方で、アジア諸地域の現地研究機関・図書館との学术交流を積極的に推進することで、新たな分野の資料群を探索・収集し、研究図書館としての東洋文庫の一層の充実に取り組んだ。

国際シンポジウムの運営全般、および総合アジア圏域研究班の諸活動に携わって研究活動を補助する人材、および欧文による成果発信を強化するための人材を確保・育成すべく取り組んだ。

〔研究実施概要〕

総合アジア圏域研究では、12月8日(土)、9日(日)の両日、2018年度総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research”(アジア古地図研究:基礎情報と研究の展望)を開催し、2日間で延べ65名が参加した。

ロナルド・トビ氏(イリノイ大学名誉教授。右写真)、クリスティーナ・クラメロッチ氏(フランス国立ギメ東洋美術館主任学芸員)による基調報告をはじめ、高橋公明研究員・大澤顯浩研究員のコーディネートによる2つのセッションを設けて、それぞれ報告者3名、コメンテーター1名を立てて報告・討議を行ったのち、国内外の歴史学者・古地図研究者等との間で活発な議論が行われた。



8日の基調報告の後には、中村寛氏(前出)による『大明地理之図』と最新のIT技術を組み合わせた研究データベースのデモンストレーション、図書部の橘伸子氏・安藤万有子氏によるブラウ・ヤンソン『大地図帳』の紹介・パネル展示が行われ、大いに報告者・参加者の関心を呼んだ。

当日の配布資料として、*List of place names in two atlases from the Tōyō Bunko collection compiled in the 17th-century Netherlands: Blaeu, Grooten Atlas, 1664-1665, and Janssonius, Novus Atlas Absolutissimus, 1658*(橘伸子編)、国際シンポジウム要旨集(英文)を印刷・配布した。また例年どおりオンラインジャーナル *Modern Asian Studies Review* / 新たなアジア研究に向けて vol. 10に国際シンポウムの要旨等を掲載した(https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1230)。当日のプログラムについては、IV. 普及活動-A. 研究情報普及-2. 東洋文庫公開講座・公開研究会を参照。

現代中国研究では、2018年12月1～2日、華東師範大学(上海)との共催で第7回中国当代史研究ワークショップを開催した。中国からの招聘者7名に加えて日本側の参加者約30名が中華人民共和国史の先端的研究をめぐる討論するとともに、第8回会議を2019年11月下旬に上海で開催することを確認した。当日のプログラムについては、IV. 普及活動-A. 研究情報普及-2. 東洋文庫公開講座・公開研究会を参照。

現代イスラーム研究では、2019年度にコーディネートを担当する総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Structural Changes of the Islamic Area in the Modern Period: a Comparative Study”(仮)について開催日時、およびイスラーム地域(アラブ・トルコ・イラン・中央アジア)を中心に、中国・日本・東南アジア・南アジア等の研究者から報告者・コメンテーター等を選定することなど概要を検討した。

内陸アジア研究のうち**中央アジア研究班**・**チベット研究班**では、2020年度にコーディネートを担当する総合アジア圏域研究国際シンポジウムの実施計画策定のため検討を開始した(【内陸-1・3・4】)。

インド・東南アジア研究のうち**東南アジア研究班**では、2018・19年度の研究活動の成果を踏まえ、2020年度に東南アジアの研究者も含めた国際シンポジウム開催の可能性について検討した(【東南】)。

(4) 研究成果の刊行・発信の強化

担当：中村威也
小澤一郎

資料調査・研究の検討過程や研究成果、および国際シンポジウム・ワークショップの内容を紙媒体・電子媒体によって発信する。特に国際シンポジウムはその速報性を重視して、開催年度にオンラインジャーナル *Modern Asian Studies Review* / 新たなアジア研究に向けて(https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1052)で概要を発信し、翌年度以降に紙媒体で報告論文集を刊行する。また、従来の和文・欧文による発信を一層推進するとともに、新たに中国語による発信を加えることで、多言語による研究成果の国際発信力を強化し、資料交流・人的交流・国際交流に資すべく取り組んだ。

また、出版物の質的向上をはかるため、東洋学の知識と編集校閲技能を兼ね備えた人材を確保・

育成し、かつ日本語論文を英訳するネイティブ・スピーカーの協力を得た。

これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなる。

〔研究実施概要〕

総合アジア圏域研究では、日本人による研究成果の国際発信の一環として、岡本隆司編『宗主権の世界史—東西アジアの近代と翻訳概念—』(名古屋大学出版会、2014年刊)を全編英訳して、*The History of Suzerainty: Asian Modernities and Translations* (TBRL20)と題して刊行した。本書は、西洋人が多用した「宗主権」という概念の背後に歴史的な大転換を読み解くことで、東西の多角的な文化圏を統合したオスマン帝国と清朝の「普遍性」の解体をはじめとして包括的に捉え、現在までつづく世界秩序の形成過程の解明を試みたものである。

東アジア研究のうち、**前近代中国研究班**では、『水経注疏訳注 穀水篇』(和文論叢82)、『中国近世法制史料読解ハンドブック』を刊行した。前者は「中国古代地域史研究」グループによる3年間にわたる研究成果であり、研究会に参加する若手研究者が執筆に当たり、研究員が編集に当たった(【東ア-1】)。後者は「宋以後の法令分析を通じた中国前近代の構造解明」グループが3年間をかけて執筆・編集を行ったもので、研究員が自身の研究から蓄積してきた知識や技法を駆使して、宋代から民国時代の主要な法制史料を取り上げ、その読み下し、読解、和訳、語法、史料的価値、研究に活用する際の注意点、参考文献などを余すところなくまとめたもので、他に類書はなく、独創的かつ有益な学術成果といえる(【東ア-4】)。

近代中国研究班では、研究成果発表の場として『近代中国研究彙報』第41号を刊行した(【東ア-5】)。

日本研究班では、『岩崎文庫貴重書書誌解題IX』を刊行した。本書は、『岩崎文庫和漢書目録』(東洋文庫、1932年)のうち「中古文 物語、草子、日記」に分類著録される資料52点、「室町時代小説 御伽草子」の資料9点、「謡曲 狂言」の資料14点、「幸若舞曲」の資料7点、「藝術及遊技 歌舞音曲」の資料3点、「藝術及遊技 猿樂」の資料11点、「藝術及遊技 繪畫」の資料1点に対する解題と書影からなる(【東ア-9】)。

(5) 若手研究者の育成

担当: 會谷佳光
相原佳之

2018年度より、若手研究者育成のため、「奨励研究員制度」を施行した。この制度は、従来の奨励研究員受入制度(日本学術振興会特別研究員 PD 修了者、嘱託研究員修了者のうち科学研究費を採択された者などを受け入れるための制度)を拡充したもので、国内外の大学においてアジア基礎資料研究に関連する学科を専攻して博士後期課程を修了した者のうち博士学位取得後10年未満で、文庫の所蔵資料を活用して研究を行い、かつ文庫の研究図書館としての諸活動を将来的に担うことが期待される者を対象に、公募・内部推薦を併用して募集・選考を行って「東洋文庫奨励研究員」に登用するという制度である。奨励研究員には、東洋文庫からの科学研究費に応募する資格を与え、東洋文庫研究員に準ずる者として『東洋文庫年報』の「役職員名簿」にも掲載し、東洋文庫の資料を広範に利用できるようにするなど待遇面の向上を行うと同時に、研究班・研究グループのメンバーとして資料研究・アジア現地資料調査・国際会議に参加するなど実践的な研究指導を行うことで、研究者としての早期の自立を促すなど、若手研究者の育成・雇用促進に結び付けるべく支援体制の整備に取り組んでいる。

また、研究者育成のためのインターンシップ活動として、ハーバード・エンチン研究所の研修プログラムの紹介や、若手研究者のための成果発信支援プログラムとして英語論文の作成指導などを実施した。奨励研究員経験者を、国際共同研究やアジア国際シンポジウムなど東洋文庫の各種の公開学術活動に積極的に登用し、アジア各地における日本人研究者雇用のニーズに応えるべく取り組んだ。並行して、若手研究者の参画によって東洋文庫の研究図書館としての機能を継承発展させる一方、『東洋学報』『東洋文庫欧文紀要』等の学術誌の編集、資料収集・整理、および研究データベースの

開発・発信等において、研究支援者として雇用して実務経験を積ませるなど、若手研究者の育成および雇用促進のための体制を一層充実させ、東洋文庫の事業の安定的・継続的な実施をはかった。

東洋文庫で研究補助等の業務に従事する若手研究者のうち科学研究費の応募資格を持たない者が、日本学術振興会の科学研究費助成事業(科学研究費補助金)「奨励研究」に申請して教育的・社会的意義を有する研究に取り組む場合、所属機関として「奨励研究」にかかわる諸手続・管理を承諾することで、その研究を積極的に支援する体制を整えた。

上記の東洋文庫における若手研究者育成事業について広く周知するため、ホームページの作成に着手した。

[研究実施概要]

内外の若手研究者が国際的に活躍できるスキルを身につけることを支援するため、2018年9月12日(水)、外国人講師ポール・クラツスカ氏(シンガポール国立大学出版会編集長)を講師に迎え、「英文による成果発信支援セミナー」を開催し、若手研究者4名の参加を得た(右写真)。



総合アジア圏域研究では、若手研究者育成の一環として、2018年度総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research”に参加した若手研究者段宇氏(学習院大学博士後期課程)に報告レポートの執筆を依頼した。本レポートは、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に中英2カ国語で掲載した(中国語：<http://id.nii.ac.jp/1629/00007024/>、英語：<http://id.nii.ac.jp/1629/00007025/>)。紙質調査チームの若手研究者3名を、京都で開催された国際シンポジウム「西域桃源—大谷探検隊から見たクチャの仏教文化—」に派遣して、中央アジア地域とそこで用いられた古文書の用紙等に関する知見を深める機会を与えた。

現代中国研究では、華東師範大学(上海)との共催で開催した第7回中国当代史研究ワークショップにおいて若手研究者の報告者を公募し、3名が日本側の推薦枠(うち若手2名)で研究成果の発表を行った。また、定例の研究会では研究報告に若手研究者の登壇を積極的に促し、分野の異なる若手研究者間の交流を進めた。さらに海外の若手研究者との交流促進の一環として、香港史を専門とする陳学然氏(香港城市大学副教授)を招聘して研究会を2回開催し、日本の若手と香港研究者との交流の場を設けた。東洋文庫の嘱託研究員・奨励研究員の片倉衷文書研究会への参加を受け入れ、戦後日本人による中国旅行記(1949～89)について、若手研究者を臨時職員として雇用し、指導しながら目録・解題の作成を進めた。

現代イスラーム研究では、中東・中央アジアの歴史的法令の翻訳作業に当たって、若手研究者が研究協力者として参加し、中心的な役割を果たした。

東アジア研究のうち前近代中国研究班「中国古代地域史研究」グループの研究会では、研究員の数を上回る若手研究者が参加した。講読は若手が主体となり、研究員はそれを批判・修正・補足することで、若手研究者の研究・執筆能力の向上を図った(【東ア-1】)。朝鮮半島の原三国時代～三国時代の集落・都城の現地調査およびデータベースの構築に当たっては、専修大学大学院博士課程の韓国人留学生が研究協力者として参加した。今後は修士課程の学生にも協力を依頼する予定である(【東ア-2】)。「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」グループの定例研究会では、大川裕子氏(日本女子大学非常勤講師)が明清時代の農書『沈氏農書』『補農書』訳注の報告を継続し、研究会での議論をもとに『『補農書』(含『沈氏農書』)試積—現地調査を踏まえて—(2)』(『上智史学』63号)を発表した(【東ア-3】)。近年、首都圏の大学院で中国近世史を専門とする研究者が陸続として定年退職し、同じ地域や時代を専門とする者が必ずしもそのポストを継承できない日本の教育機関の現状においては、この分野の若手研究者の育成が危機に瀕しているといっても過言ではない。そのような状況にあって、2018年度刊行の『中国近世法制史料読解ハンドブック』は、指導者から直接指導が受けられない若手研究者に対し、東洋文庫研究員がこれまで培ってきた研究資源を開

放し、この状況を改善する上で非常に意義深いものである。その全文を東洋文庫リポジトリ「ERNES T」で公開することで、紙媒体で発行する以上の発信力を持って、全国の若手研究者を裨益するものとなっている (https://toyobunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1243)。その他、新たな研究啓蒙書の作成や、若手研究者に開かれた研究報告会を開催してインターカレッジ的な指導を可能にするための方策を模索した (【東ア-4】)。

東北アジア研究班では、東洋文庫所蔵の「鑲紅旗檔」・「鑲白旗檔」等の諸資料に関する研究を行うに当たり、当該文書を紙質の方面から分析する研究に、東洋文庫奨励研究員が参加することにより、研究スキルの向上ならびに当該研究の進展を図った (【東ア-7】)。若手研究者の育成を目的の一つとして、清代史研究のための満洲語講座を定期的の開講するべく、その第一段階としての基礎入門講座「『論語』で学ぶ満洲語～文献史料類を読むための満洲語文語入門講座:初級篇」(同 II) (東洋文庫アカデミア)を実施するとともに、若手研究者を指導して雲南省碑文拓本資料の資料整理、碑文の翻字作成等に取り組んだ (【東ア-8】)。

日本研究班では、2018年度刊行の『岩崎文庫貴重書書誌解題IX』の編集に当たり、書誌学を学ぶ大学院生3名の協力を得、研究指導を行いつつ、書誌調査と解題の執筆に取り組んだ (【東ア-9】)。

内陸アジア研究のうち中央アジア研究班では、班所属の若手研究者を、2月17日～3月2日の期間、カザフスタン共和国国立文書館、カザフスタン共和国中央科学図書館、カザフスタン共和国国民図書館に派遣して、19世紀セミパラチンスクの税関に関する文書を中心に調査し、ロシア・新疆貿易全般に関する史料を収集した (【内陸-2】)。「濱田徳海敦煌文書コレクション」の整理と集約に当たり、中堅・若手研究者の協力を得た。また、内陸アジア古文献研究会を開催して、若手研究者の報告の場として積極的に活用した (【内陸-3】)。**チベット研究班**では、チベットの歴史、言語、宗教(仏教・ボン教)、社会に関する一次資料の基礎研究に当たり、若手研究者を指導しながら共同研究を行った (【内陸-4】)。

インド・東南アジア研究のうち**インド研究班**では、中世インド洋海域交易史を研究する栗山保之研究員が、若手研究者として新たに研究班に加わった (【南ア】)。**東南アジア研究班**では、若手研究者の研究会への参加を積極的に促すとともに、彼らの研究構想を発表する場を設け、かつ2019年度に TBRL シリーズとして刊行予定の *The Development of Urban Society in Southeast Asia from Historical Perspectives* に寄稿を依頼した。故仲田浩三氏旧蔵の古ジャワ語刻文拓本資料(2019年度刊行)について、若手研究者がその目録化作業に取り組んだ (【東南】)。

なお、2018年度は、若手研究者育成の一環として下記の者を採用した。

(嘱託研究員)

・太田 啓子

研究課題「アラビア半島・紅海文化圏の歴史」に取り組みつつ、総合アジア圏域研究班に所属し、東洋文庫諸活動の継承・発展のため国際シンポジウム等を通じた国際交流事業に従事した。

・小澤 一郎

研究課題「近現代西アジア軍事社会史」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため欧文刊行物の編集・校閲に従事した。

・中村 威也

研究課題「中国古代地域社会、非漢族研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため和文刊行物の編集・校閲に従事し、かつその豊富な学術刊行物編集経験を東洋文庫の内外に対して普及すべく取り組んだ。

(奨励研究員)

・中塚 亮

研究課題「明代小説『封神演義』の研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため図書事業に参画した。

・多々良圭介

研究課題「清代文書資料を中心とした諸文献の紙質をめぐる研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究事業、とくに紙質調査に参画した。

アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ

| 部門 | 研究班 | アジア基礎資料研究テーマ | 略号 | |
|-----------|---------|--|------------------------------|------|
| 超域アジア | 総合アジア | アジア資料学の深化—保存・研究・普及のための文理融合型 アジア資料学の展開と研究データベースの構築 | — | |
| | 現代中国 | 現代中国の総合的研究(4) | — | |
| | 現代イスラーム | 近現代イスラーム地域の構造変動 | — | |
| 歴史文化研究 | 前近代中国 | 中国古代地域史研究 | 東ア-1 | |
| | | 東アジアの古代・中世遺跡出土の遺構・遺物の考古学的研究 | 東ア-2 | |
| | | 中国社会経済・基層社会用語のデータベース化 | 東ア-3 | |
| | | 宋以後の法令分析を通じた中国前近代社会の構造解明 | 東ア-4 | |
| | 近代中国 | 20世紀前半日本の中国調査研究機関に関する総合的研究 | 東ア-5 | |
| | 東北アジア | 近世の朝鮮で作製された各種記録類についての基礎的・総合的研究 | 東ア-6 | |
| | | 清代満洲語文書資料及び画像資料等のデータベース化に関する研究 | 東ア-7 | |
| | | 清代中国諸地域の構造分析:政治・社会経済・民族文化の史的展開 | 東ア-8 | |
| | 日本 | 岩崎文庫貴重書の書誌的研究(4) | 東ア-9 | |
| | 内陸アジア | 中央アジア | 非漢字諸語出土古文献の研究 | 内陸-1 |
| | | | 近現代中央ユーラシアにおける出版メディアと政治・社会運動 | 内陸-2 |
| | | | 日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究 | 内陸-3 |
| | | チベット | チベット語資料の活用とチベット文化の複合的研究 | 内陸-4 |
| インド・東南アジア | インド | インド中世・近世における文書史料研究 | 南ア | |
| | 東南アジア | 近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究 | 東南 | |
| 西アジア | 西アジア | 文書資料による比較制度研究 | 西ア | |
| 資料 | 東アジア資料 | 東アジア現地資料の研究 | — | |

アジア資料調査地域分担一覧



II. 資料収集・整理

アジア基礎資料研究に取り組む各研究班と協力して、アジアの現状および歴史・文化に関する一次資料(写本、文書史料、刊本、地図、統計、調査記録等)、専門研究書、定期刊行物を収集し、東洋文庫所蔵資料の充実に努めた。

収集した資料を速やかに整理して電子情報化することで、アジア学資料センターとしての機能強化を推進した。東洋文庫所蔵資料の書誌に関するデータベース化をさらに推進し、オンライン検索サービスにより広く一般の利用に供するため、様々な言語に通じた司書・研究者・大学院生による書誌データの加工作業を継続した。

2015～2017年度に続き、東洋文庫の所蔵資料のうち、和書・漢籍・洋書古典・近代初期洋書、絵画、考古資料等に対する悉皆調査を行い、専門家による和漢洋古典籍の保存修復を実施するとともに、書誌学・資料学の専門家の協力のもと調査・分析ならびに記録を行い、デジタル・アーカイブに加工し、広範な利用の目的にもかなうようにすべく取り組んだ。

以上の活動を推進するため、書誌学に通暁した人材の育成と、アジア資料学の構築を目指し、東洋文庫独自の若手人材育成という課題に取り組んだ。

A. 資料購入

超域アジア研究、アジア諸地域研究、資料研究において必要とされる一次資料を中心に購入を進めた。購入冊数は下記の通りである。

| 区 分 | 和漢書 | 洋 書 | その他 |
|--------------|---------|---------|-----|
| 総合アジア圏域研究 | 4 冊 | 13 冊 | 0 件 |
| 超域・現代中国研究 | 86 冊 | 0 冊 | 0 件 |
| 超域・現代イスラーム研究 | 3 冊 | 639 冊 | 0 件 |
| 東アジア研究 | 205 冊 | 0 冊 | 0 件 |
| 内陸アジア研究 | 54 冊 | 36 冊 | 0 件 |
| インド・東南アジア研究 | 0 冊 | 34 冊 | 0 件 |
| 西アジア研究 | 0 冊 | 287 冊 | 0 件 |
| 共通(継続・大型資料) | 957 冊 | 204 冊 | 0 件 |
| 合 計 | 1,309 冊 | 1,213 冊 | 0 件 |

B. 資料交換

国内外各提携機関との間で資料交換を進めた。

| 区 分 | 受 贈 | | | | | 寄 贈 | | |
|-------|---------|-------|-------|-----|---------|---------|---------|---------|
| | 和漢書 | 洋 書 | アジア諸語 | その他 | 計 | 和漢書 | 洋 書 | 計 |
| 単行本 | 959 冊 | 205 冊 | 592 冊 | 3 冊 | 1,759 冊 | 594 冊 | 747 冊 | 1,341 冊 |
| 定期刊行物 | 793 冊 | 390 冊 | 213 冊 | 0 冊 | 1,396 冊 | 4,489 冊 | 476 冊 | 4,965 冊 |
| 計 | 1,752 冊 | 595 冊 | 805 冊 | 3 冊 | 3,155 冊 | 5,083 冊 | 1,223 冊 | 6,306 冊 |

C. 資料保存整理

2018年4月1日～2019年3月31日までの期間における保存整理作業は、下記の通りである。

保存整理作業として、保存環境の整備、虫菌害の対策に努めるとともに、破損資料の修理・修復、洋書革装本の保全処置、保存容器の作製などを行った。本年度は昨年度に引き続き、ミュージアムでの展示資料を初めとする和・漢・洋古典籍(モリソン文庫・岩崎文庫ほか)を中心に作業を行った。

| | |
|---------------------|-------|
| ・逐次刊行物合冊製本(外注) | 298 点 |
| ・修理・修復(破損による再製本を含む) | |
| 洋書 | 324 点 |
| 和漢書 | 100 点 |
| ・簡易補修 | 11 点 |
| ・革装本の保全処置(HPC塗布など) | 200 点 |
| ・保存容器(外注含む) | 229 点 |
| ・マイクロフィルム劣化防止作業 | 528 件 |

Ⅲ. 資料研究成果発信

A. 定期出版物刊行

1. 『東洋文庫和文紀要』(東洋学報) 第100巻第1-4号 A5判 4冊(刊行済)
☒https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1062
2. 『東洋文庫欧文紀要』 No.76 B5判 1冊(刊行済)
(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*)
☒https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=908
3. 『近代中国研究彙報』 第41号 A5判 1冊(刊行済)
☒https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=431
4. 『東洋文庫書報』 第50号 A5判 1冊(刊行済)
☒https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1251
5. *Modern Asian Studies Review* Vol.10 オンラインジャーナル(公開)
／新たなアジア研究に向けて
☒https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1230
6. *Asian Research Trends New Series* No.13 A5判 1冊(刊行済)
☒https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1004

B. 論叢等出版

1. *A World History of Suzerainty: A Modern History of East and West Asia and Translated Concepts* (TBRL20) B5判 1冊(刊行済)
☒東洋文庫リポジトリ「ERNEST」公開準備中
2. 『水経注疏訳注 穀水篇』(和文論叢82) A5判 1冊(刊行済)
☒https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1301
3. 『中国近世法制史料読解ハンドブック』 A5判 1冊(刊行済)
☒https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1243
4. 『岩崎文庫貴重書書誌解題IX』 B5判 1冊(刊行済)
☒東洋文庫リポジトリ「ERNEST」公開準備中
5. *A Classified Catalogue of The Morrison Library in Toyo Bunko vol.1* B5判 1冊(刊行済)
改訂版
☒東洋文庫リポジトリ「ERNEST」公開準備中
6. *List of place names in two atlases from the Tōyō Bunko collection compiled in the 17th-century Netherlands : Blaeu, Grooten Atlas, 1664–1665, and Janssonius, Novus Atlas Absolutissimus, 1658* A5判 1冊(刊行済)
7. 2018年度総合アジア圏域研究国際シンポジウム要旨集 A4判 1冊(刊行済)

IV. 普及活動

アジア基礎資料研究の成果を一般向けに分かりやすく解説するため、東洋文庫研究員等による東洋学講座を前後2期、計6回開催した。また、各研究班のコーディネートによって、招聘研究者および来日中の著名な外国人研究者による特別講演会を開催した。その一方、学芸員を雇用して、東洋文庫の蔵書資料や研究成果をわかりやすく展示解説し、一般に広く普及すべく取り組んだ。

A. 研究情報普及

1. 東洋学講座

近年の研究成果を一般に向けて広く普及するため、前期に前近代中国研究班「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」グループ、後期に西アジア研究班による講座を実施した。

(前期)〈斯波義信先生文化勲章受章記念〉中国日用百科全書の世界—商売・算術・裁判
第566回6月22日(金)

「資金調達方法にみるチャイニーズネス」
東洋文庫研究員 斯波 義信氏
(右写真)

第567回7月4日(水)

「共に学ぶ宋・元・明の日用数学」
東洋文庫研究員 渡辺 絃良氏

第568回7月6日(金)

「地域のボスを告訴するには—告訴状作成ガイドを読む」
東洋文庫研究員 大澤 正昭氏



(後期) 文書資料からみる中東・イスラーム地域の生活
第569回12月10日(月)

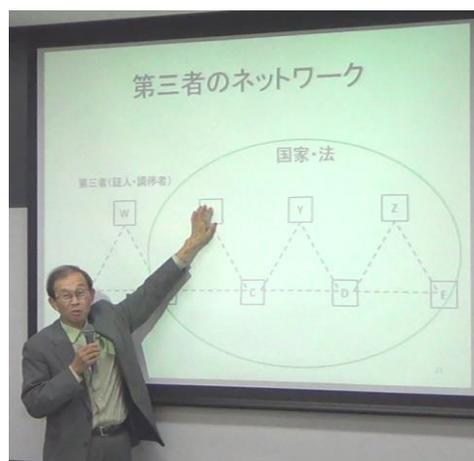
「イスラーム法廷文書にみる契約と裁判」
東洋文庫研究員 三浦 徹氏
(右写真)

第570回12月14日(金)

「東洋文庫所蔵モロッコ皮紙契約文書から見る不動産の売買と相続」
東洋文庫研究員 佐藤健太郎氏

第571回12月19日(水)

「会計のしくみ：ペルシア語簿記術指南書が映す財政と経済」 東京大学非常勤講師 渡部 良子氏



2. 東洋文庫公開講座・公開研究会

東洋文庫の所蔵資料や研究活動・研究成果をテーマとして、国内外の当該分野の著名研究者を招いて実施した(以下、開催日順で記載)。

(東アジア資料研究班による国際共同研究)

10月20日(土)

「中国の伝統人形芝居の現在(いま)」

「中国の伝統人形芝居について」

東洋文庫研究員 馬場 英子氏

「舟山の指遣い人形芝居の伝承と現在、非物質文化遺産としての保護」

浙江海洋大学 毛 久燕氏

「温州独り遣い指人形芝居の基本芸術形態」

温州非物質文化遺産中心 楊 思好氏



(近代中国研究班による国際共同研究)

11月23日(金)

国際シンポジウム「近現代中国農村的社会環境与新農村建設」

「四社五村的水利秩序和礼治秩序」

長崎県立大学国際社会学部教授 祁 建民氏

「近代無錫鄉村自治的歴史啓示—以薛明劍的玉祁自治実験郷為例」

無錫市政治協商委員会元研究室主任 湯 可可氏

「農民自主性对農村家庭收入的影响—基於上海市郊9个村調查数拠的分析」

華東師範大学社会發展学院教授 張 文明氏

「華北農村社会結構之再考察—以山西某村為例」

神戸学院大学非常勤講師 陳 鳳氏

「近年来中国農村調查研究的現狀与課題」

東洋文庫研究員 内山 雅生氏

(現代中国研究班による国際共同研究)

12月1日(土)～2日(日)

第7回日中共同研究「中国当代史研究」ワークショップ

「紅色摩登—上海電影人的1950年代」

報告：華東師範大学 張 濟順氏

コメント：京都大学 石川 禎浩氏

「解放軍的北平・北京入城与分裂的青春想像」

報告：神戸大学 濱田 麻矢氏

コメント：華東師範大学 馮 筱才氏

「資源利用与生態演化—二十世紀五六十年代川西和陝南山区的“打獸運動”」

報告：華東師範大学 姜 鴻氏

コメント：東洋文庫研究員 小浜 正子氏

「人民公社初期一個生産大隊的收入史」

報告：北京師範大学 張 海栄氏

コメント：東洋文庫研究員 中兼和津次氏

「1950年代中国絲綢公司对資本主義市場行情的調研」

報告：東京大学大学院 上西 啓氏

コメント：華東師範大学 劉 彦文氏

「從上海学生到甘肅教師—1950年代都市青年支教辺疆研究」

報告：華東師範大学 劉 彦文氏

コメント：北海道大学 松村 史穂氏

「從“壞典型”到“好榜樣”—温州“資本主義道路”的悲喜劇」

報告：華東師範大学 馮 筱才氏

コメント：東洋文庫研究員 久保 亨氏

「日中医学交流的政治史—1950年代中期的互相訪問為中心」

報告：東洋文庫研究員 飯島 涉氏

コメント：華東師範大学 楊 奎松氏

「帰結於“日本方式”与“一個中国”—1970年代澳大利亞与東南亞各国的中国外交」

報告：東洋文庫研究員 平川 幸子氏

コメント：華東師範大学 王 海光氏

総合討論司会：東洋文庫研究員 村田雄二郎氏

(総合アジア圏域研究班【地図】研究グループのコーディネートによる国際共同研究)
12月8日(土)～9日(日)

The Seventh International Symposium of Inter-Asia Research Networks
Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research

Organizer:

HAMASHITA Takeshi (Research Department Head, Toyo Bunko)

December 8, 2018 (Sat.)

Opening Remark

HAMASHITA Takeshi (Research Department Head, Toyo Bunko)

Keynote Speech 1

Ronald TOBY (Professor Emeritus, EALC and History, The University of Illinois)

“Bounding Early Modern Japan: Bakufu Maps, Hayashi Shihei, Kondō Jūzō, and Inō Tadataka”

Presentation from Toyo Bunko

NAKAMURA Satoru (Assistant Professor, Information Technology Center, The University of Tokyo), TACHIBANA Nobuko (Library Department Staff, Toyo Bunko),

ANDOH Mayuko (Library Department Staff, Toyo Bunko)

December 9, 2018 (Sun.)

Session 1

Chair: TAKAHASHI Kimiaki (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor Emeritus, Nagoya University)

LIN Tian jen (Research Fellow, National Palace Museum)

“*Chuan Hai Tu Zhu* in the Ming Dynasty Marine Chart Series”

WATANABE Miki (Associate Professor, Department of Interdisciplinary Cultural Studies, Graduate School of Arts and Science, The University of Tokyo)

“The Oldest Map Becomes the Newest: Takemori Dōetsu’s 1696 Map of the Ryūkyū Kingdom”

TAKAHASHI Kimiaki

“Ryukyu and Taiwan in Maps of China Made in Edo Japan”

SHIH Wen-cheng (Associate Curator, Research Division, National Museum of Taiwan History)

“Comment”

Discussion

Keynote Speech 2

Cristina CRAMEROTTI (Conservatrice en chef, Bibliothèque du Musée national des arts asiatiques-Guimet)

“The Secret Life of Maps: A History of the National Museum of Asian Arts-Guimet Through Its Cartographic Collection”

Session 2

Chair: OSAWA Akihiro (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Gakushuin University)

CHENG Zhi (Kicengge) (Professor, Otemon Gakuin University)

“Land Surveys in the Northeast for the ‘*Huangyu quanlan tu*’”

USAMI Bunri (Professor, Graduate Schools of Letters, Kyoto University)

“An Explanation of the Relationship between Maps and *Shan Shui* Paintings”

OSAWA Akihiro

“Landscape-style Maps in Early Modern China”

KOBAYASHI Shigeru (Professor Emeritus, Osaka University)

“Comment”

Discussion

General Discussion

(中央アジア研究班「日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究」グループによる国際共同研究)

3月22日(金)

内陸アジア古文献研究会春季大会

「莫高窟隋初供養人服飾」

敦煌研究院考古研究所館員 武 琮芳氏

「敦煌莫高窟の漢語供養人題記にみる字体の問題」

大妻女子大学・二松学舎大学非常勤講師 菊地 淑子氏

「釈迦であり阿弥陀である仏像—初盛唐期法華経関連の造形を中心として—」

法政大学大学院兼任講師 久野 美樹氏

3. 特別講演会

東洋文庫研究員、研究班の主催によって、主として来日中の著名な外国人研究者を招いて実施した(以下、開催日順で記載)。

(中央アジア研究班「近現代中央ユーラシアにおける出版メディアと政治・社会運動」グループ主催による講演会)

7月18日(水)

“The East Turkistan Cause in the Inter-War Middle East” [英語・通訳なし]

Senior Lecturer in Modern Chinese History, University of Sydney

David Brophy 氏

(前近代中国研究班「中国古代地域史研究」グループが受け入れた外国人客員研究員による研究成果報告会)

7月25日(水)

「両漢県属游徼考」 [中国語・通訳あり] 中国西南大学歴史学院専任講師 張 新超氏

(若手研究者育成のためのセミナー)

9月19日(水)

英文による成果発信支援セミナー

“Preparing Papers for International English-language Journals” [英語・通訳なし]

国立シンガポール大学出版会編集長 Paul H. Kratoska 氏

(斯波義信研究員のコーディネート、東洋文庫名誉研究員による講演会)

1月11日(金)

“From the “Great Divergence” to the “great Convergence”—The Modern Transformation of the Yangzi Delta's economy in global and historical perspective—” [英語・通訳なし]

東洋文庫名誉研究員・北京大学教授 李 伯重氏

(平野健一郎研究員のコーディネートによる講演会)

1月18日(金)

「伝統的天下共同体における地域統合概念の新発見—歴史経験と文化価値の分析」

台湾中央研究院近代史研究所前主任研究員・現兼任研究員 張 啓雄氏

(中央アジア研究班「日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究」グループ主催による講演会)

1月25日(金)

「唐代長安仏教文化の西漸」〔中国語・通訳あり〕

北京大学教授 栄 新江氏

3月8日(金)

「鄴城新出「ソグド文・漢文一体墓誌」および深圳望野博物館所蔵北朝陶磁器」〔中国語・通訳あり〕

深圳望野博物館 館長 閻 焰氏

以上

(協力協定機関ドイツ・マックスプランク研究所より受け入れた外国人客員研究員による研究成果報告会)

3月27日(水)

“Water, Ritual and Political Power in Yunnan during the First Millennium CE”〔英語・通訳なし〕

Postdoctoral Fellow, Max Planck Institute for the History of Science

徐 淳氏

4. 東洋文庫談話会(東洋文庫研究会)

専門分野の若手研究者による成果報告会として設定している。2018年度は対象となる若手研究者(東洋文庫での受入最終年度の者)がいなかったため実施しなかったが、対象をさらに拡大した形での若手研究者のための研究発表会の創設を検討した。

5. ミュージアムによる公開講座・イベント・ワークショップ

東洋学の一般への普及を目的に、企画展に合わせて、以下のミュージアムによる公開講座・イベント・ワークショップを開催した(以下、項目別に開催日順で記載)。

【公開講座】

(「ハワイと南の島々展」 会期:2018年1月18日~5月27日)

5月4日(金)

「太平洋芸術祭の映像と踊り」

太平洋民族芸能プロデューサー 小出 光氏
フラダンサー クウレイナニ橋本氏

5月13日(日)

「19世紀のハワイ諸島—王国の栄光と篡奪」

法政大学教授 山本 真鳥氏

以上

(「悪人か、ヒーローか展」 会期:2018年6月6日~9月5日)

6月10日(日)

「江戸のメディアにみる悪人像」

太田記念美術館主幹学芸員 渡邊 晃氏

7月1日(日)

「人間始皇帝をめぐる悪人たち」

学習院大学教授 鶴間 和幸氏

7月8日(日)
「敗者の言い分—清盛あるいは頼朝」 日本大学教授 関 幸彦氏

7月21日(土)
「オスマン朝君主の見方を考える」 東京大学名誉教授 鈴木 董氏

8月4日(土)
「三国志の「奸」と「雄」—董卓・呂布・曹操」 早稲田大学教授 渡邊 義浩氏
以上

(「大♡地図展 古地図と浮世絵」 会期：2018年9月15日～2019年1月14日)

9月30日(日)
「広重から見る浮世絵風景画」 国立歴史民俗博物館教授 大久保純一氏

11月11日(日)
「世界を描く—古地図にみる江戸時代の人々の見方・考え方」 東京大学史料編纂所教授 杉本 史子氏

11月18日(日)
「古地図からみる江戸の駒込」 学習院女子大学教授 岩淵 令治氏

12月23日(日)
「伊能図の小説的解釈～日本初の科学的測量に基づく日本全図(伊能図)は、将軍吉宗の悲願だった」 作家 太田 俊明氏
以上

(「インドの叡智展」 会期：2019年1月30日～5月19日)

2月24日(日)
「欧州を魅了した小さな花柄の源流を求めて」 日本大学教授 伊豆原月絵氏

3月10日(日)
「古代インドにおける真理と神の探求」 筑波大学准教授 志田 泰盛氏
以上

【ワークショップ】

(「ハワイと南の島々展」 会期：2018年1月18日～5月27日)

4月14日(土)
「座ったままでもできるフラ♪」、「はじめてのフラ—1曲踊れるようになる」
フラダンサー 古賀まみ奈氏

(「悪人か、ヒーローか展」 会期：2018年6月6日～9月5日)

8月9日(木)
「親子で楽しむ!悪人 or ヒーロー」 東洋文庫研究員・学芸員 篠木 由喜氏

(製本体験シリーズとして人気のワークショップリバイバル)

10月14日(日)
「ご朱印帳をつくろう♪」 東洋文庫研究員・学芸員 篠木 由喜氏

【イベント】

（「ハワイと南の島々展」 会期：2018年1月18日～5月27日）
5月3日（木）
「ハワイ DAY！」

東京大学フラサークル KaWelina
フラダンサー 古賀まみ奈氏
ハワイアンミュージシャン 西里 慶氏

6. 研究情報の普及

研究情報を普及するため、機関リポジトリ「ERNEST」(<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>)。「I アジア基礎資料研究」p.12に既出)、OPACシステム (<http://tbopac.toyo-bunko.or.jp/>) を管理・運営した。

7. 参考情報提供

調査研究による研究成果をはじめ東洋文庫の活動全般に関する年次報告書として、下記の刊行を行った。

『東洋文庫年報』2017年度版 A5判 1冊 (刊行済)
https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1246

B. データベース公開

東洋文庫所蔵資料の書誌に関するデータベース化は、総冊数約100万冊の遡及入力を進めており、2018年度は、引き続き洋装本漢籍などの書誌データの補充のほか、貴重洋書の全頁資料、絵画、地図などの画像データのデジタル化を進めると同時に、梅原考古資料の未公開部分（縄文時代・弥生時代）につきデジタル化・データベース化を推進することで、本格的な東洋学多言語貴重資料のマルチメディア電子図書館の構築に取り組んだ。

従来より整備・公開している書誌・画像・動画データベースについては、もっぱら公共へのサービスに重点を置き、アクセス数の掌握・分析を行ってきたが、今後は、実際にどの程度、研究者に利用されているかを掌握するため、下記の体制を構築した。

一. データの一部について登録制を導入した。

従来、不特定多数への公開に問題があって一般公開に至っていないデータがあり、これについて登録制を導入して公開を進めた。登録者には、利用した著作物について、その著作物の書誌事項・利用個所の報告を義務付け、その利用状況を把握すべく取り組んだ。

(1) 中国祭祀演劇関係写真データベース：57,529件

このデータは画像の精度を落として一般公開しているが、低精度のため印刷物に掲載するには鮮明度が不足している。印刷物へ転載できる程度に精度を上げた画像データを登録制によって公開すべく準備を進めた。

(2) 中国地方劇録音テープのデジタルデータ（脚本付）：1,829場面

このデータは、香港で収集したもので、著作権の存否を判定しにくいため、図書室の閲覧者のみの利用に止めてきたが、登録制によってネット上に公開した。一般公開のVersionと登録制のVersionの2種を作成し、前者では、表紙画像及び30秒程度の音声のみを提供し、後者では、完全なデータを提供した。

(3) 中国地方劇DVDのデジタルデータ（中国語字幕付き）：1,143枚

このデータは、香港及中国大陸で収集したもので、その大部分は著作権の存続期間中にあると思われるため、利用は、図書室の閲覧者に限定する方針をとってきた。しかし、登録制を導入してネット上に公開すべく準備を進めた。前項に準じ、一般公開用（30秒視聴）と登録用（全面視聴）の2つのVersionを作って対応する。

二. 利用者に対し、データベースのコンテンツを著作物に引用した場合に、その旨を著作物に明記すること、本文庫に対するその旨の通知及び当該著作物の1部献呈などを要望した。この旨を明記した文言を、データベースの大項目の冒頭に掲げた。また引用個所が明示できるよう、表示した頁に記号・番号を付与すべく取り組んだ。

上記の体制を構築するため、データベース技術指導者・補助作業者を雇用して作業を進めた。

2018年4月1日～2019年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ（日本語・英語）に対するオンライン検索アクセス状況については、別添資料の通りである。

C. 海外交流

フランス国立極東学院および中央研究院（台湾）、ハーバード・エンチン研究所（アメリカ）、アレキサンドリア図書館（エジプト）、イラン議会図書館、SOAS（イギリス）、ベトナム社会科学院漢喃研究所、マックス・プランク研究所（ドイツ）、国際テュルク・アカデミー（カザフスタン）との学術交流を進め、資料・情報の交換と研究者の相互訪問を継続的に実施した。

なかでもハーバード大学アジア研究図書資料館であるハーバード・エンチン研究所とは、2010年10月に交流協定を結び、資料交流・人材交流のみに止まらず、共同研究ならびにそれらを通じた若手人材育成を共同で行う取り組みを開始しており、それらを一層推進した。また、中央研究院とは、新たに近代史研究所との間で、研究データベースの連携を中心に据えた交流協定を締結すべく調整を進めた。

世界各地からアジア基礎資料研究に取り組む外国人研究者を招聘して、総合アジア圏域研究国際シンポジウム“Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research”（2018年12月8～9日開催）等を通じた国際学術交流を推進した。その窓口には若手研究者を携わらせることで、最新の研究動向の把握や国際的な人脈形成等を支援し、国際的に活躍可能な人材の育成に取り組んだ。

V. 学術情報提供

東洋文庫は、日本における東洋学にかかわる共同利用の研究機関であると同時に、国内外の研究者並びに研究機関との連絡に当たって今日に至っている。従って、学術情報の提供に関する下記の諸事業は東洋文庫として最も力を入れているところである。

A. 図書・資料の閲覧(協力)サービス

広く一般に開放された無料の閲覧室の運営を行った。

| 数量/月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 書庫利用者人数 | 25人 | 50人 | 54人 | 45人 | 30人 | 23人 |
| 閲覧者人数 | 142人 | 182人 | 184人 | 229人 | 289人 | 227人 |
| 閲覧図書数 | 1,595冊 | 2,713冊 | 2,072冊 | 3,325冊 | 3,473冊 | 2,840冊 |
| レファレンス数 | 45件 | 63件 | 64件 | 74件 | 86件 | 67件 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 30人 | 34人 | 16人 | 22人 | 33人 | 51人 | 413人 |
| 196人 | 270人 | 193人 | 142人 | 193人 | 205人 | 2,452人 |
| 2,037冊 | 2,951冊 | 2,599冊 | 2,002冊 | 2,116冊 | 1,734冊 | 29,457冊 |
| 61件 | 82件 | 56件 | 44件 | 61件 | 69件 | 772件 |

B. 研究資料複写サービス

| | 申し込み件数 | 焼付枚数 |
|---------------|--------|----------|
| マイクロフィルム・紙焼写真 | | 24,000コマ |
| 電子複写 | 834件 | 24,824件 |

C. 情報提供サービス

刊行物の全文データ公開を随時更新した。

D. 展示

広く一般多数の方々を対象とした東洋学の普及を図る手段として、「東洋文庫ミュージアム」を運営した。

1. 基本方針

このミュージアムでは、特に東洋学に興味を持たない一般の方々を主な対象とし(中学生程度の歴史知識を前提)、これらの利用者に、ミュージアム見学を通して東洋学に興味を持つ機会を提供するものである。本ミュージアムは、東洋文庫の蔵書・史料を中心に種々の展示企画を組み立て、常に新たな発見と変化のある展示を心がけている。

2. 展示手法

広く一般の方々にミュージアム訪問の興味を喚起するため、①見学に適切な規模の展示内容とし、②展示の解説は日頃東洋学とは疎遠な利用者にも十分理解できる簡易なものとし、③デジタル技術等を取り入れた視聴覚的かつ斬新な展示で利用者の興味を引くことに努めた。

3. 施設

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に万全を期している。また、併設のギフト・ショップ、ミュージアム・カフェでは、東洋文庫の所蔵資料も紹介し、一般利用者に対してミュージアムの魅力を高め、東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムの一体施設として運営した。

4. 展示スケジュール

常設展と企画展の組み合わせからなる展示スケジュールを立て、以下の展示を開催した。

- a) 常設展では国宝、重文などの指定品のほか、東洋文庫が所蔵する名品を、年3回内容を変更して公開した。
- b) 以下の展示を開催し、展示図録を発行した。
 - 〈企画展〉
 - ①「ハワイと南の島々展」(会期:2018年1月18日～5月27日)
 - ②「悪人か、ヒーローか展」(会期:2018年6月6日～9月5日)
 - ③「大🇺🇸地図展 古地図と浮世絵」(会期:2018年9月15日～2019年1月14日)
 - ④「インドの叡智展」(会期:2019年1月30日～5月19日)
 - 〈常設展〉

「記録された記憶～東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史」
- c) 各企画展において展示図録を作成した。全ページカラーで画像を多用し、解説文も平易なものわかりやすいものに仕上げた。A5版でハンディなブックレットタイプである。
- d) 上記企画展会期中に公開講座(企画展示記念講座)を開催した。

IV.普及活動ーA.研究情報普及ー5.ミュージアムによる公開講座・イベント・ワークショップを参照。
- e) 六義園特別展示「六義園をめぐる歴史」を開催した。

会期: ①3月21日～4月2日
②11月21日～12月10日
会場:東洋文庫ミュージアム1階オリエントホール

5. ガイドツアー

ミュージアム来館者へのサービスの一環として、館内ガイドツアーを実施し、好評を得た(開館期間は希望者がいる場合は15時に開催)。

6. ミュージアム諮問委員会

ミュージアムの運営について、外部有識者の意見を取り入れるため、2018年7月9日に第4回委員会を開催した。

7. 成蹊大学図書館での展示

東洋文庫の貴重書を大学図書館入口にて展示した。

8. 文京区向けの普及活動

- a) 文京区の文の京ミュージアムネットワークの会員で文京ミュージアムフェスタ(各施設による展示・体験コーナー、PRポスター、パネル等の掲示)にインターン生と共に参加した(12月20日、於文京区役所1F)。

9. 図書展示コンサルティング

ミュージアムにおける図書資料展示の経験を役立てるため、学芸員が下記の図書館・団体にて講演と実演を行った。

- a) 11月9日 山口県公立図書館職員等専門講習会(会場:山口県立山口図書館)

10. 入場者数

2018年4月1日～2019年3月31日における、ミュージアム総入場者数は以下のとおりである。

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 入場者数 | 3,080 | 4,185 | 2,888 | 3,499 | 4,101 | 3,524 | 4,297 | 5,553 | 4,477 |

| 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-------|-------|-------|--------|
| 3,292 | 2,959 | 4,283 | 46,138 |

E. 普及広報

東洋文庫所蔵の図書・史料の掲載・報道・放映等の依頼に適宜対応すると共に、ホームページを随時更新し、利便性を確保した。東洋学の若年層への普及を目指し、学校連携活動も行った。

1. 要人の訪問

ガブリエル・ドゥケ駐日コロンビア大使、駐日フィリピン大使、ほか。

2. 報道実績

ミュージアムに関する報道実績の主なものを以下に挙げる(50音順)。

新聞：『毎日新聞』、『読売新聞』、『東京新聞』、『朝日新聞』など。

テレビ：テレビ東京『風景の足跡』(1月8日(火)放送)にて、東洋文庫が紹介された。

Eテレ『日曜美術館／アートシーン』(3月20日(日)放送)にて、インドの叡智展が紹介された。など。

3. 『東洋見聞録』

東洋文庫の活動をご支援頂いている「名誉文庫員」、「友の会会員」、職員OBほか関係者をつなぐニュースレターとして発行・頒布した。

4. メールニュース

東洋文庫ミュージアムのメールニュースをメール会員向けに毎月発信した。

5. 小学生・中学生・高校生・大学生向けの学習支援・普及活動

a) スクールパートナーシップを結んでいる東京都小石川中等教育学校の中学1年生160名の見学会を実施した(4月28日)。

b) 文京区立駕籠町小学校の社会科授業を学芸員が2回にわたり行った(6月11日、7月19日)。

c) キャンパスパートナーシップを結んでいる青山学院大学文学部の学生2名を8月1日～3日・7日～9日の6日間、東洋大学文学部の学生2名を12月3日～6日・10日～12日の7日間、学芸員が対応して博物館実習を行った。

d) 海城中学高等学校の希望者へ向けて、学芸員が古地図の講座を行った。参加者は学生18名、教員3名(8月20日)。

e) 文京区立駕籠町小学校2年生の授業「まちたんけん」に学芸員が対応した(9月28日)。

f) 筑波大学附属視覚特別支援学校の中学部男女各1名に対して、東洋文庫ミュージアム運営に関する職場体験を実施した(11月16日)。

g) スクールパートナーシップを結んでいる東京都小石川中等教育学校の中学2年生2名に対して、6月19日～21日の3日間、ミュージアム受付やガイド、学芸員他が対応してパネル作成等の職場体験を行った。また、高校1年生2名に対して、7月23日・24日の2

- 日間、図書部閲覧室で受け入れ、社会参加体験活動「人間と社会」を行った。
- h) インターン制度を設け、第9期(3月～6月)2名、第10期(7月～9月)2名、第11期(11月～2月)1名を受け入れ、学芸員が対応して就業経験を実施した。

6. 唐奨受章

斯波義信文庫長が唐奨第三回漢学奨を受章された。

7. 特定資産「斯波研究奨励基金」の設立

斯波義信文庫長より、唐奨を受章された賞金より若手研究者の育成のため、2000万円をご寄付頂き、特定資産「斯波研究奨励基金」を設定した。2019年度より「斯波研究奨励金制度」に従って東洋文庫奨励研究員を対象に募集・選考を行い、研究奨励金の給付を開始する。

8. 長崎大学との連携

長崎大学が現在文部科学省に対して許認可申請中の多文化社会学研究科博士課程(2020年4月設置予定)について、学外連携機関として協力することとなった。

9. 東洋文庫アカデミア

東洋文庫研究員をはじめとする各分野の専門家が講師となり、所蔵資料やこれまでの研究成果などの専門知識をわかりやすく教授する市民向け講座を下記のとおり実施した。

| 講座名 | 講師(所属) | 期間 | 人数 |
|-------------------------------------|---|----------------------|----|
| イスラーム美術の細密画 | 青木節子(トルコ細密画と文化史の会) | 2018年4月9日 ～5月28日 | 3 |
| 初歩の水墨画講座—風景を写生するⅡ | 伊藤忠綱(二松学舎大学非常勤講師) | 2018年4月14日 | 12 |
| 『論語』で学ぶ満洲語～文献史料類を読むための満洲語文語入門講座:初級篇 | 石橋崇雄(東洋文庫専任研究員) | 2018年4月13日 ～5月11日 | 6 |
| イランの芸術—ペルシア書道に親しむシャーナーメ(王書) | 角田ひさ子(拓殖大学言語文化研究所講師) | 2018年4月7日 ～4月21日 | 6 |
| 海の歴史を見る—ポリネシア人の大航海から南シナ問題まで(太平洋編) | ミシュラン・フランク(帝京大学教授) | 2018年4月4日 ～5月23日 | 6 |
| 彝族の言葉と文字の世界 | 岩佐一枝(名城大学非常勤講師) | 2018年4月21日、 22日 | 12 |
| 初歩の水墨画講座—大型動物を描くⅠ | 伊藤忠綱(二松学舎大学非常勤講師) | 2018年5月12日 ～7月28日 | 10 |
| 漢字研究最先端—漢検漢字文化研究所東京講座 | 阿辻哲次(漢字文化研究所所長・京都大学名誉教授)、笹原宏之(早稲田大学教授)、吉川雅之(東京大学准教授)、ジスク・マシュー(山形大学准教授)、岩月純一(東京大学准教授)、円満字二郎(辞書編集者) | 2018年5月12日 ～7月21日 | 71 |
| 中国古典から「四書」を楽しむ! | 山本節子(獨協大学オープンカレッジ講師・リスタート・ウーマン代表) | 2018年5月14日 ～7月2日 | 2 |
| イランの芸術—ペルシア書道に親しむ「国語のなかの文字」 | 角田ひさ子(拓殖大学言語文化研究所講師) | 2018年5月19日 ～7月21日 | 5 |

| 講座名 | 講師(所属) | 期間 | 人数 |
|--------------------------------------|------------------------------|-----------------------|----|
| 『論語』で学ぶ満洲語～文献史料類を読むための満洲語文語入門講座:初級篇Ⅱ | 石橋崇雄(東洋文庫研究員) | 2018年5月25日 ～8月31日 | 4 |
| イスラーム美術の細密画 | 青木節子(トルコ細密画と文化史の会) | 2018年6月11日 ～8月27日 | 5 |
| 中国琵琶で楽しむ「中国漢詩の世界」 | 于溪瑩(中国琵琶奏者・中国古典楽器音楽教室主宰) | 2018年6月23日 | 15 |
| 中国医学史散策—本当の〈健(すこやかさ)〉 | 角屋明彦(明治大学非常勤講師) | 2018年7月22日 ～8月19日 | 23 |
| イスラーム美術の細密画 | 青木節子(トルコ細密画と文化史の会) | 2018年9月10日 ～11月26日 | 4 |
| 初歩の水墨画講座—大型動物を描くⅡ | 伊藤忠綱(二松学舎大学非常勤講師) | 2018年9月15日 ～11月10日 | 11 |
| イランの芸術—ペルシア書道に親しむ「5書体へのちょっぴり挑戦」 | 角田ひさ子(拓殖大学言語文化研究所講師) | 2018年9月15日 ～12月22日 | 9 |
| 楔形文字を読む | 森若葉(国士舘大学研究員/京都大学文学研究科非常勤講師) | 2018年9月15日、 16日 | 7 |
| 知の宝庫—古代の図書館から現代までⅠ | 池田勇(元二松学舎大学非常勤講師) | 2018年9月26日 ～11月21日 | 3 |
| 満洲の歴史Ⅰ | 宮脇淳子(東洋文庫研究員) | 2018年9月29日 ～12月15日 | 18 |
| イランの芸術—ペルシア書道に親しむ「ライラーとマジユーン物語」 | 角田ひさ子(拓殖大学言語文化研究所講師) | 2019年2月2日 ～4月20日 | 6 |
| 満洲の歴史Ⅱ | 宮脇淳子(東洋文庫研究員) | 2019年2月2日 ～4月27日 | 17 |
| 初歩の水墨画講座(『百花詩箋譜』を描く)Ⅰ | 伊藤忠綱(二松学舎大学非常勤講師) | 2019年2月9日 ～4月27日 | 13 |
| エブル(トルコのマーブリング)作成体験講座 | 高坂雅子(エブルの会) | 2019年2月9日、 3月9日 | 8 |
| 2日で学ぶ与那国語 | 山田真寛(国立国語研究所准教授) | 2019年2月16日、 17日 | 7 |
| イスラーム美術の細密画 | 青木節子(トルコ細密画と文化史の会) | 2019年2月25日 ～4月22日 | 7 |
| 学術刊行物のための校正・校閲術(指摘だし・入朱テクニック) | 中村威也(東洋文庫研究部) | 2019年3月16日、 17日 | 14 |

F. 国際交流

東洋文庫は、フランス国立極東学院、中央研究院(台湾)、ハーバード・エンチン図書館(アメリカ)、ハーバード・エンチン財団、アレキサンドリア図書館(エジプト)、イラン議会図書館、SOAS(イギリス)、ベトナム社会科学漢喃研究所、マックス・プランク研究所(ドイツ)、国際テュルク・アカデミー(カザフスタン)と協力協定を締結しており、これらを中心に国際交流を推進した。

G. 研究者の交流および便宜供与のサービス

1. 長期受入

(1) 外来研究員の受入

フランソワ・ラショウ（フランス国立極東学院 東京支部長）

「近世日本の美術史・宗教史（蒐集家と文人のネットワーク、黄檗文化等々）」

「近世期の東アジアの交流史（日本・中国・ロシア・西欧）」

（2017年3月15日～2021年3月31日）

張 新超（中華人民共和国 西南大学 歴史文化学院 民族学院）

「秦漢地方行政制度、秦漢法制史、出土文献」（2017年9月1日～2018年8月31日）

[受入担当：池田 雄一]

ティモシー・ブルック（ブリティッシュコロンビア大学教授）

「13世紀から20世紀にかけての世界史の中の中国」（2018年4月17日～2018年5月17日）

[受入担当：濱下 武志]

呉 真（中国人民大学 中文系 副教授）

「中国古代戯曲演劇史」

（2018年7月3日～2018年9月6日）

[受入担当：田仲 一成]

陶 徳民（関西大学 文学部 教授）

「近世近代日本漢学思想史・近代東アジア文化交渉史」（2019年2月28日～3月12日）

[受入担当：斯波 義信]

(2) 2018年度日本学術振興会特別研究員PDの受入

なし

(3) 2018年度嘱託研究員の採用

・相原 佳之[継続]

研究課題「中国明清時代環境史」に取り組みつつ、総合アジア圏域研究班に所属し、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究データベースの構築等に従事した。

・太田 啓子[継続]

研究課題「アラビア半島・紅海文化圏の歴史」に取り組みつつ、総合アジア圏域研究班に所属し、東洋文庫諸活動の継承・発展のため国際シンポジウム等を通じた国際交流事業に従事した。

・小澤 一郎[継続]

研究課題「近現代西アジア軍事社会史」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため欧文刊行物の編集・校閲に従事した。

・中村 威也[継続]

研究課題「中国古代地域社会、非漢族研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため和文刊行物の編集・校閲に従事し、かつその豊富な学術刊行物編集経験を東洋文庫の内外に対して普及させることに努めた。

・徐 小潔[新規]

研究課題「近代日中関係史、コディコロジー」に取り組みつつ、普及展示部に所属し、ミュージアム企画展示等に従事した。また、総合アジア圏域研究班に所属し、東洋文庫諸活動の継承・発展のため紙質調査・古地図研究に取り組んだ。

(4) 2018年度奨励研究員の受入

・関 智英[新規]

科学研究費基盤研究(C)「近代日中関係の対外宣伝と相互理解をめぐる摩擦と模索—『順天時報』の分析を通して」(研究代表者:青山治世亜細亜大学准教授)の研究分担者として参画した。

- ・中塚 亮[新規]
研究課題「明代小説『封神演義』の研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため図書事業に参画した。
- ・多々良圭介[新規]
研究課題「清代文書資料を中心とした諸文献の紙質をめぐる研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究事業、とくに紙質調査に参画した。

2. 外国人研究者への便宜供与

各国より東洋文庫を訪問する外国人研究者に対し、調査研究上必要とされる便宜供与を行った。

- Austria Georg Gartner [ウィーン工科大学 国際地図学会]
- China 黒 龍 [大連民族大学 教授](他 5 名)
Gege Wang [Nanjing University](他 7 名)
定 源 [廈門閩南仏学院 学術顧問](他 3 名)
楊 早 [中国社会科学院文学研究所 教授]
劉 玉 [武漢大学 国際地図学会]
尤陳俊 [中国人民大学法学院 副教授]
黎俊忻 [広州市図書館《広州大典》編纂部《広州大典》データベース編集]
ガザンジェ [青海民族大学 民族学与社会学学院准教授](他 1 名)
毛久燕 [浙江海洋大学東海発展研究院 助理研究員](他 1 名)
張文明 [華東師範大学 教授](他 2 名)
王海光 [華東師範大学 教授](他 4 名)
徐晟氏 [古代史研究者]
陳健梅 [浙江大学歴史学院 准教授](他 3 名)
陳侃理 [北京大学歴史系 副教授]
田 天 [首都師範大学 副教授](他 2 名)
- Czech VítVozenílek [パラツキー大学オロモウツ 国際地図学会]
- England デイヴィッド・フォレスト [グラスゴー大学 国際地図学会]
Jose Ignacio SANCHEZ [Warwick University, Great Britain Research Fellow]
- France Randi DEGUILHEM [CNRS, TELEMMe-MMSH/AMU, ix-en-Provence Professor]
Annick Horiuchi [パリ第七大学 教授]
- Germany モニカ・シスター [ハノーバーライプニッツ大学 国際地図学会]
Tillmann LOHSE [Humboldt University, Berlin Privatdozent and adjunkt](他 1 名)
Robert Garris [Schwarzman Scholars Program]
- Hungary ラズロー・ゼンタイ [エトヴェーズ大学 国際地図学会]
- Korea HyunJong Noh [Seoul National University](他 1 名)
- Mongolia S. CHULUUN [Institute of History MAS, Mongolia, ULaanbaator Doctor. Sc. D.](他 3 名)
- Netherlands メノ・ジャン・クラック [トウエンテ大学 国際地図学会 会長]
- Singapore Ian Rowen [Assistant Professor of Nanyang Technological University (Singapore)]
Hyo Kyung Woo [Nanyang Technological University (Singapore)]
- Spain ピラール・サンチェス・オルティス・ロドリゲス [スペイン・ナショナルジオグラフィック研究所 国際地図学会]
- Taiwan 吳蕙芳 [国立台湾海洋大学海洋文化研究所 教授]
雷祥麟 [中央研究院近代史研究所 副研究員]

USA Wei-ti Chen [Fairbank Center for Chinese Studies at Harvard University] (他 2 名)
リン・ユーズリー [米国地質調査所 国際地図学会]
Sybille Jagusch [アメリカ議会図書館 児童書部門主任司書] (他 1 名)
Ms. Martha Tedeschit [Harvard Art Museums]
James Ulak [フリーア美術館]
Thomas Lee (李弘祺) [ニューヨーク大学 名誉教授] (他 1 名)

Vietnam Khue Dieu Do [Seoul National University]
Ngo Xuan Cong [日越大学大学院修士課程 地域研究プログラム院生] (他 1 名)
ディン・クアン・ハイ教授 [ベトナム社会科学アカデミー 史学研究所所長・教授]
(他 2 名)

以 上

2018年度 公益財団法人東洋文庫特別事業報告書

公益財団法人 東洋文庫
理事長 榎原 稔

2018年4月1日から2019年3月31日までに行われた公益財団法人東洋文庫特別事業の概要は、下記の通りです。

事業内容

特別調査研究並びに研究成果の編集等

A. 日本学術振興会科学研究費補助金による事業

1. 研究成果公開促進費(データベース、学術図書)の対象事業

①研究成果データベース

「東洋学多言語貴重資料のマルチメディア情報システム」

[研究代表者:東洋文庫電算化委員会委員長 斯波 義信]

(2014年度採用、5ヶ年・最終年度)

2. 基盤研究(B)の対象事業

「戦前・戦中期における華中・華南調査と日本の中国認識」

[研究代表者:本庄比佐子]

(2015年度採用、5ヶ年・第4年度)

「イスラーム地域における物質文化史の比較研究～イベリア半島から中央アジアまで～」

[研究代表者:真道 洋子]

(2016年度採用、5ヶ年・第3年度)

※研究代表者ご逝去により2018年度をもって事業廃止

「寄進とワクフの国際共同比較研究:アジアから」

[研究代表者:三浦 徹]

(2017年度採用、4ヶ年・第2年度)

3. 基盤研究(C)の対象事業

「宋～明代日用類書の基礎的研究」

[研究代表者:大澤 正昭]

(2015年度採用、4ヶ年・最終年度)

「モロッコ皮紙契約文書(ヴェラム文書)の国際共同研究」

[研究代表者:原山 隆広]

(2016年度採用、3ヶ年・最終年度)

「渭河流域における秦文化成立の考古学的研究」

[研究代表者:飯島 武次]
(2016年度採用、3ヶ年・最終年度)

「12世紀アイユーブ朝における言論と伝達--書簡資料の利用による」

[研究代表者:柳谷あゆみ]
(2017年度採用、3ヶ年・第2年度)

「『大正新脩大蔵経』編纂の実態に関する書誌学的研究:増上寺報恩蔵本を通して」

[研究代表者:會谷 佳光]
(2018年度採用、3ヶ年・初年度)

「三上次男考古・美術資料の研究とデータベースの作成」

[研究代表者:金沢 陽]
(2018年度採用、3ヶ年・初年度)

以 上